



佐呂間町

地域創生総合戦略



北海道佐呂間町

「ふるさとづくり」とは

「ここをよせる。そこにかかわる。」

「ふるさと」は、
生まれ育った場所ではありません。

「ふるさと」は、
私たち日本人一人ひとりが、
自分のよりどころとなる
「ここをよせる」やすらぎの場を指します。

愛する人が住むところかもしれない。
偶然訪れた村や町かもしれません。
「日本全体が、私のふるさと」
という人もいます。

大切なのは「ここをよせる」ばかりではなく、
何かのかたちで、
「そこにかかわる」こと。

小さなことでもかまいません。
そこに旅にでかけてみる。
その土地の産品を買ってみる。
そこに住む人と一緒に
汗を流して働いてみる。



少しの「かわり」で、
「ここをよせる」気持ちが強くなる。
それがきっかけとなって、
さらに深く「かかわる」ようになる。

このくり返しが新しい「ふるさと」をつくります。

愛着のある場所との「かわり」によって、
失われつつある「ふるさと」への誇りと価値を
ふたたびつくりだす。

新しい「ふるさと」は、100年先のこどもたちまで
受け継がれるものになっていきます。

〔ふるさとづくり有識者会議「ふるさとづくりガイドブック」より〕

(写真：佐呂間町栄地区パッチワークの農村風景)

～人が輝く未来のサロマをめざして～

作成にあたって

日本の総人口は、2008（平成20）年の12,808万人をピークに減少局面に入り、国立社会保障・人口問題研究所（以下「社人研」という。）の推計によると、「このまま行くと2020年代初めは毎年60万人程度の減少であるが、2040年代頃には毎年100万人程度の減少スピードにまで加速することとなる。」とのことです。

人口減少はその過程において、高齢化を必然的に伴うことから、総人口の減少以上に経済規模の縮小や社会保障費の増大等、経済社会にも大きな影響をもたらすことが推測されます。

こうした中、国は、地方創生・人口減少克服を最重要課題と位置づけ、「まち・ひと・しごと創生法」を制定し、「まち・ひと・しごと創生長期ビジョン」及び、「まち・ひと・しごと創生総合戦略」が閣議決定されたところです。

また、北海道では、平成27年3月「本道における人口減少問題に対する取組指針」が策定され、10月には「北海道人口ビジョン」・「北海道創生総合戦略」が策定されました。

このことを受けて、本町においても、人口推計の分析を行い、今後の目指すべき指針となる「佐呂間町人口ビジョン」及びこれら課題に取り組む「佐呂間町総合戦略」からなる『佐呂間町地域創生総合戦略』を策定するものです。

目次

第1章 佐呂間町人口ビジョン

I	人口の現状分析	1
	○佐呂間町の総人口の推移	1
	○年齢3区分の推移	1
	○出生・死亡・転入・転出の推移	3
	○年齢階級別の人口移動の状況	5
	○総人口における産業別就業者数	7
	○居住地以外への従業の状況	9
	○観光入込客数の推移	10
	○合計特殊出生率の推移と道内各市町村との比較	11
II	将来人口の推計と分析	13
	○将来人口推計	13
	○将来の人口展望	17
III	めざすべき将来の方向	20
	○基本的方向	20
	○人口の将来展望	20

第2章 佐呂間町総合戦略

I	基本的な考え方	21
	○趣旨	21
	○計画期間	21
	○総合戦略の位置づけ	21
	○目標設定と進捗管理	22
II	基本方針	
	○まち・ひと・しごと創生の政策5原則	23
III	基本目標	24
IV	具体的な施策	25
	基本目標1 地域に安定した「しごと」産業と雇用を創出する	25
	基本目標2 地域へ新しい「ひと」の流れをつくる	27
	基本目標3 若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえる	29
	基本目標4 時代に合った「まち」をつくり・安心な暮らしを守る 地域と地域を連携する	31

参考資料

第1章

佐呂間町人口ビジョン

I. 人口の現状分析

○佐呂間町の総人口の推移

佐呂間町における人口の推移を国勢調査から見ると、1955（昭和30）年をピークに、その後、現在まで減少が続いています。

特に、1955年から1970年までの高度経済成長期には、急激に減少が進み、1955年の人口15,656人が、1970年には10,311人と15年間で5,345人、人口の約3分の1が減少しました。

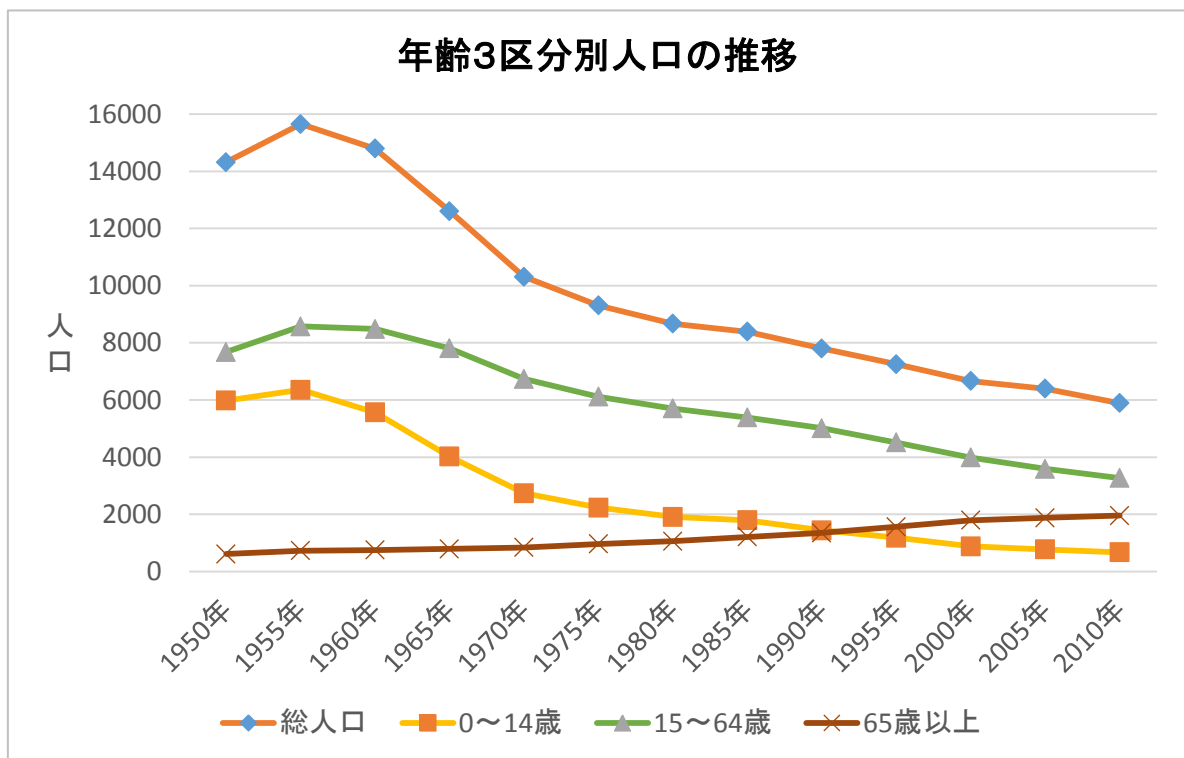
また、2010（平成22）年には5,892人となり、ピーク時の37.6%まで減少しています。

○年齢3区分の推移

総人口と同様に生産年齢人口（15～64歳）、年少人口（0～14歳）ともに減少が続いています。

一方、老年人口（65歳以上）は生産年齢人口が順次老年期に入り、また、平均寿命も延びたことから増加を続けており、1995（平成7）年には年少人口を上回り現在に至っています。

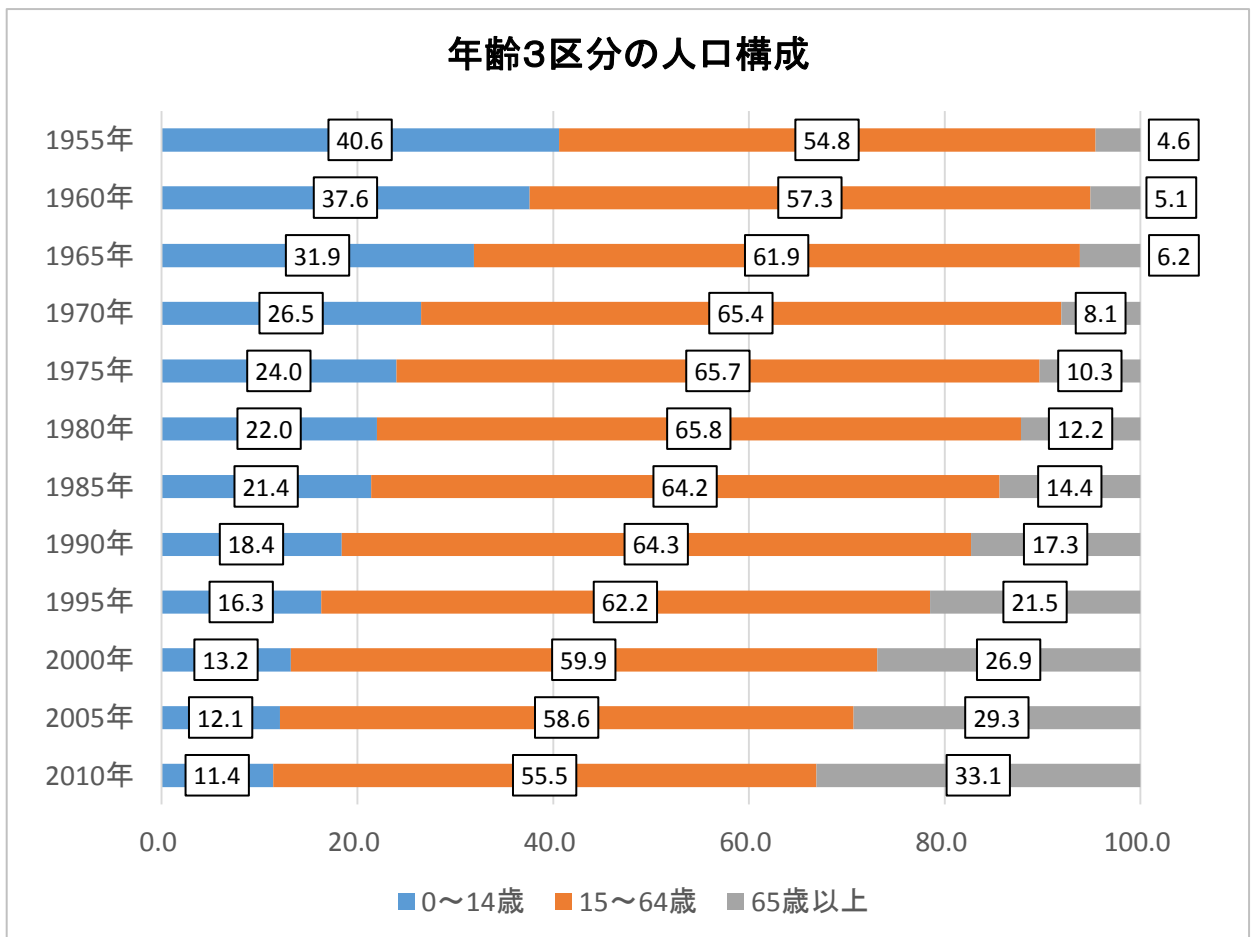
また、人口に占める老人人口率は1960年には5%でしたが、1975年には10%台、1995年には20%台、2010年には30%を越え、現在まで上昇が続いています。



（出典）国勢調査より作成

年齢3区分別人口

	人 口			構 成 比			
	総 計	0～ 14 歳	15～ 64 歳	65 歳 以上	0～ 14 歳	15～ 64 歳	65 歳 以上
1960 年	14,797	5,567	8,482	748	37.6	57.3	5.1
1975 年	9,307	2,232	6,113	962	24.0	65.7	10.3
1995 年	7,252	1,179	4,512	1,561	16.3	62.2	21.5
2000 年	6,666	879	3,989	1,789	13.2	59.9	26.9
2005 年	6,393	772	3,746	1,875	12.1	58.6	29.3
2010 年	5,892	671	3,268	1,953	11.4	55.5	33.1



(出典) 国勢調査より作成 1950年以前、年齢構成不明

○出生・死亡・転入・転出の推移

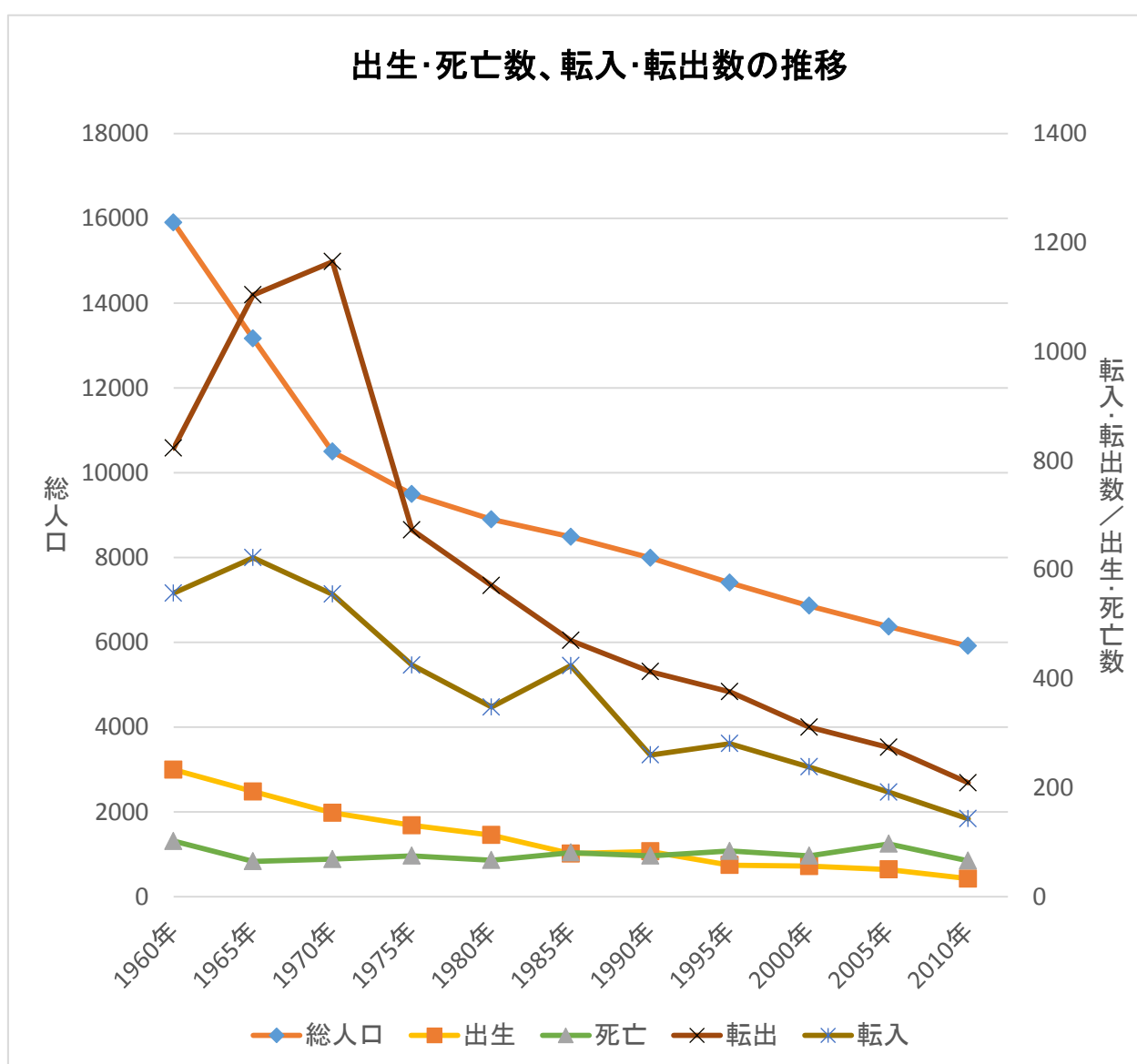
- ・自然的要因

自然増減（出生数－死亡数）については、出生率の低下・母親世代人口の減少の影響で出生数は減り続けています。

1985（昭和60）年以降は死亡数が出生数を上回る年が多くなり、平成10年以降は「自然減」の状況が続いています。

- ・社会的要因

社会増減（転入数－転出数）については、統計の残る昭和35年から、転出超過（「社会減」）が続いています。



(出典) 国勢調査より作成

直近3ヵ年人口移動状況（人）

区分	転入	転出	社会増減	出生	死亡	自然増減
2012（H24）年	142	204	△62	33	66	△33
2013（H25）年	148 (195)	209 (255)	△61 (△60)	40	87	△47
2014（H26）年	161 (212)	205 (246)	△44 (△34)	27	92	△65

※住民基本台帳（12月31日）より。2013年からのカッコ内は外国人を含む人数

転出・転入の主な地域

		2012（H24） 年	2013（H25） 年	2014（H26） 年
北見市	転入	28	32	41
	転出	52	89	52
	転入－転出	△24	△57	△11
遠軽町	転入	9	14	9
	転出	20	13	14
	転入－転出	△11	1	△5
その他管内	転入	34	47	41
	転出	44	25	47
	転入－転出	△10	22	△6
札幌市	転入	15	11	30
	転出	44	19	45
	転入－転出	△29	△8	△15
その他道内	転入	35	26	24
	転出	23	39	31
	転入－転出	12	△13	△7
道外	転入	21	18	16
	転出	21	24	16
	転入－転出	0	△6	0
計	転入	142	148	161
	転出	204	209	205
	転入－転出	△62	△61	△44

（出典）住民基本台帳（12月31日）より作成

○年齢階級別の人口移動の状況

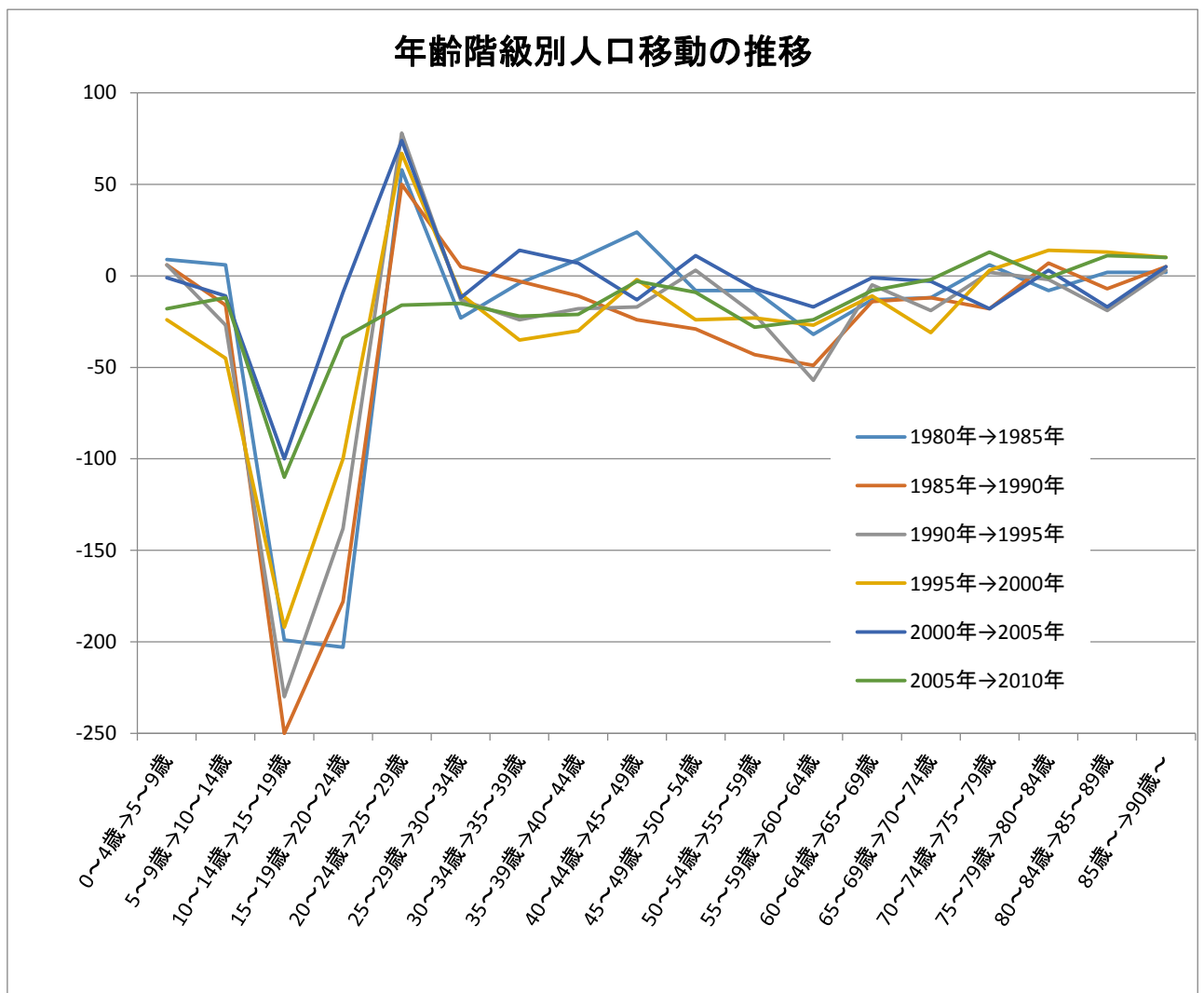
10～14歳から15～19歳及び15～19歳から20～24歳の時期に人口が減る傾向が見られます。

これは、中学・高校卒業時に進学や就職により町外へ転出する者が多いことが要因と思われます。

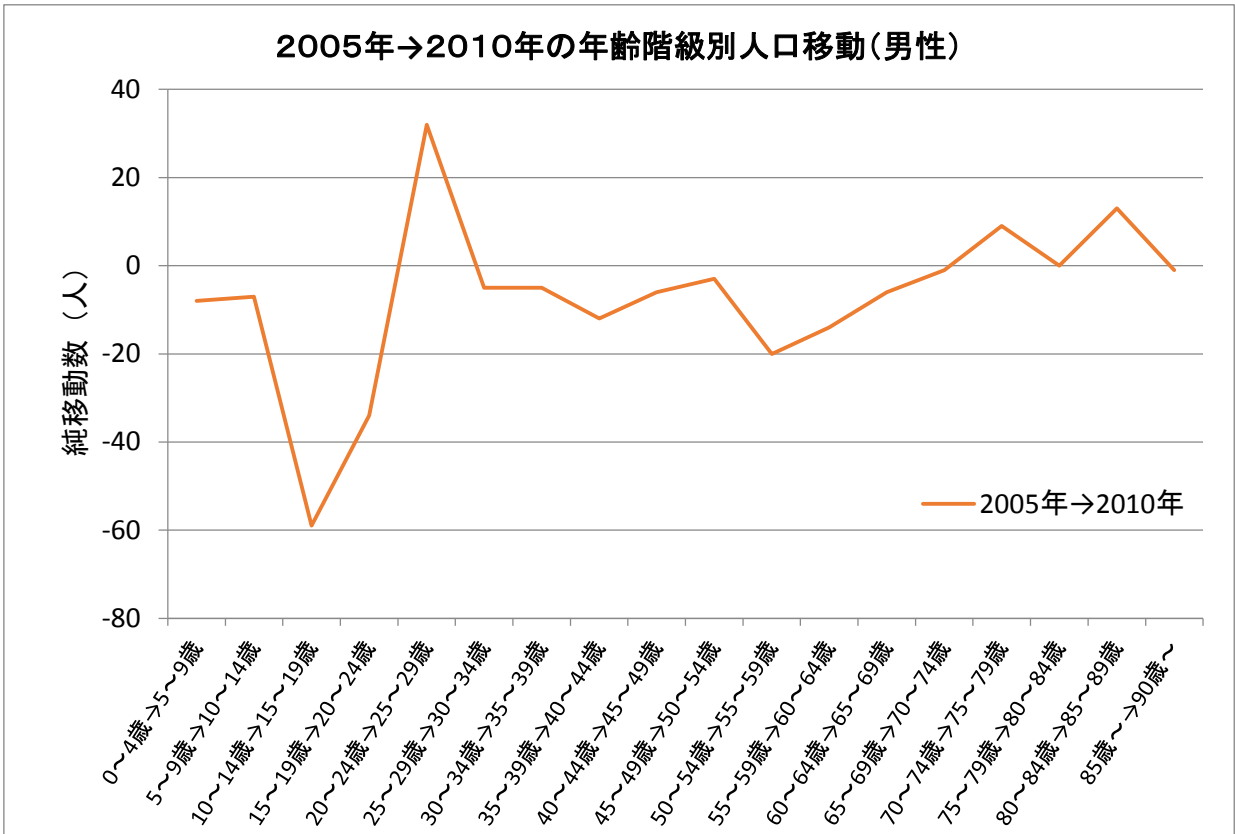
進学については、やむをえないと思われるが、地元高校への進学や地元企業への就職など、若年者が魅力を持てるような高校やしごとのあり方についての施策が求められます。

一方で、20～24歳から25～29歳になるときプラスに転じる場合が多いことが見られます。

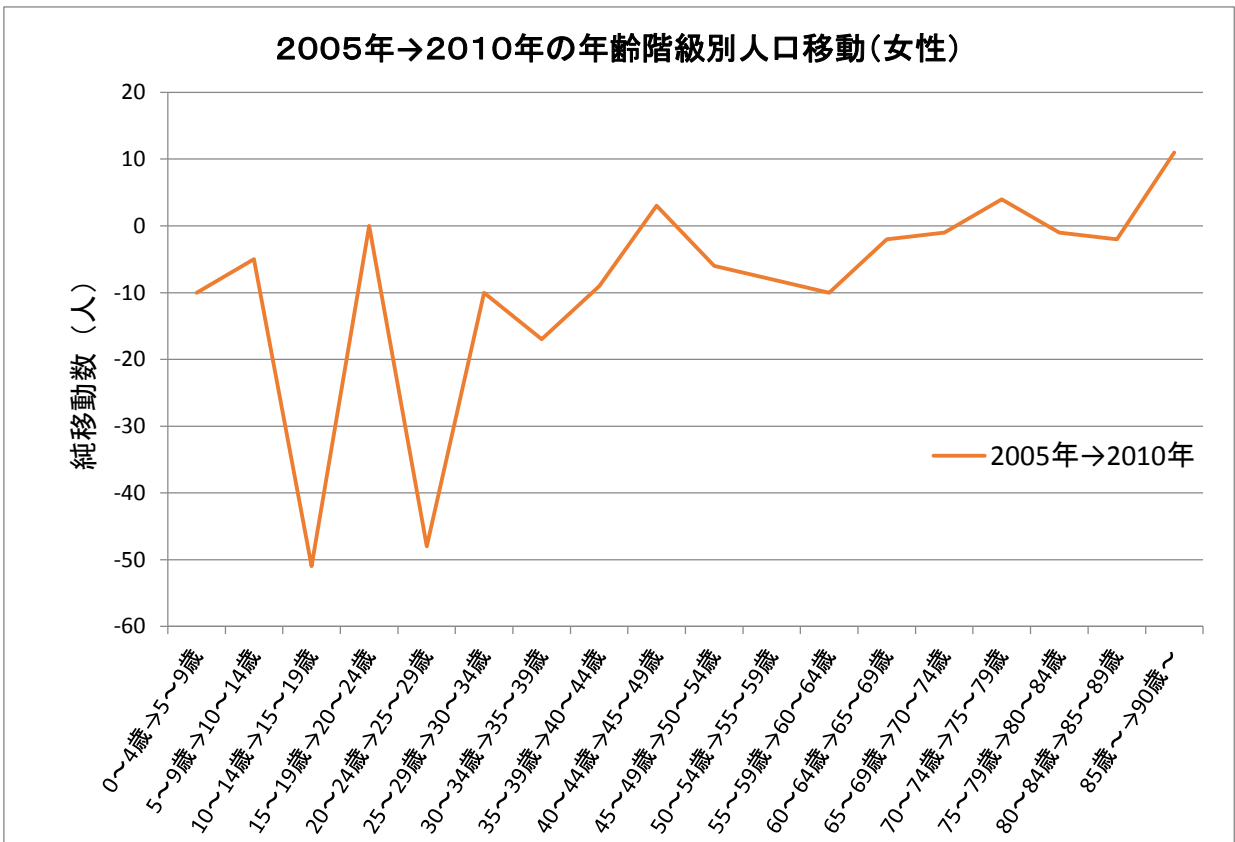
これは、大学等卒業後、就職などによるU・I・Jターンの影響と考えられますので、今後は、この世代の転入がさらに増えるような施策が特に求められます。



(出典) 国勢調査より作成



(出典) 国勢調査より作成



(出典) 国勢調査より作成

○総人口における産業別就業者数

国勢調査から産業就業者を見ると、第3次産業の割合が増加し、第1次産業・第2次産業とも減少傾向にあります。

人口減少・高齢化により、就業者数全体の減少が大きくなっています。

15歳以上の産業別就業者数

	1960年	1970年	1980年	1990年	2000年	2010年
総数	7,170	5,518	4,729	4,271	3,653	2,988
第1次産業	5,070	3,150	2,240	1,831	1,244	957
農業	4,554	2,549	1,653	1,266	793	572
漁業	291	307	404	437	400	348
林業等	225	294	183	128	51	37
第2次産業	670	760	921	952	917	713
建設業	326	375	478	355	375	223
製造業	305	371	443	593	533	488
鉱業等	39	14		4	9	2
第3次産業	1,429	1,606	1,568	1,488	1,490	1,316
卸小売業	486	515	510	411	377	244
運輸通信業	211	179	147	136	149	130
サービス業	588	731	738	764	777	791
公務	112	135	138	145	144	123
その他	32	46	35	32	43	28
分類不能		2			2	2
割合						
第1次	70.7%	57.1%	47.4%	42.9%	34.1%	32.0%
第2次	9.3%	13.8%	19.5%	22.3%	25.1%	23.9%
第3次	20.0%	29.1%	33.1%	34.8%	40.8%	44.1%

(出典) 国勢調査より作成

農家戸数推移

	1960年	1970年	1980年	1990年	2000年	2010年
農家戸数	1,600	1,037	764	607	348	212

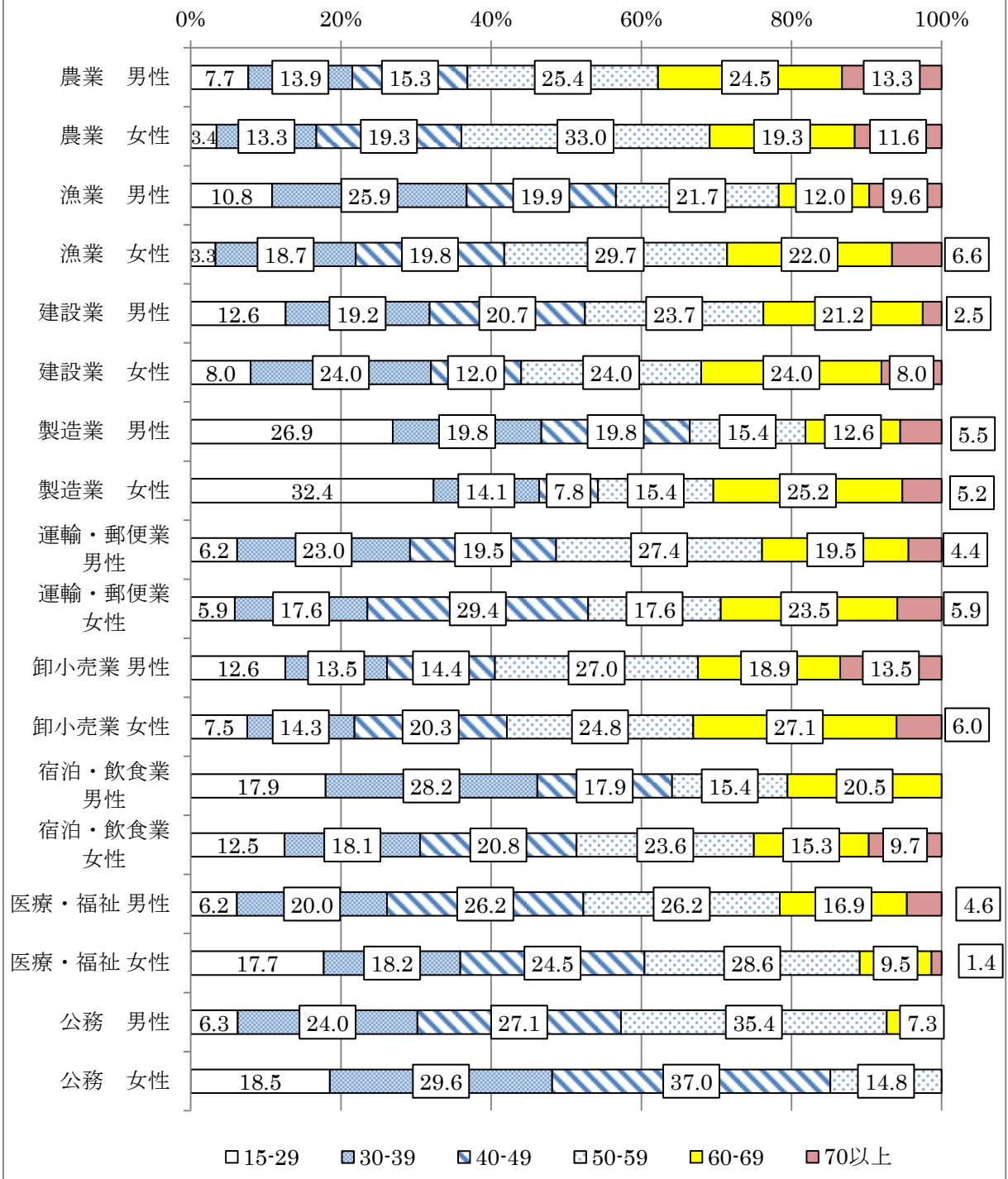
(出典) 農業センサス(各年2月1日)より作成

漁業個人経営体数

	1968年	1973年	1983年	1993年	2003年	2013年
個人経営体	98	84	106	105	105	95

(出典) 漁業センサス(各年11月1日)より作成

産業別(抜粋)年齢階層別就業人口構成比(男女別)



(出典) 平成 22 年国勢調査より作成

※公務は他に分類されるものを除く

○居住地以外への従業の状況

佐呂間町の場合、町外から町内に就業（通勤）している者が、町内から町外に就業しているものより170名多い状況です。

市町村	人 口		従業地等による 人口 他市町村に常駐 ②	従業による入 出 比 較 ②－①
		道内他市町村で 従業①		
北見市	125,689	2,748	2,922	174
網走市	40,998	1,099	1,839	740
紋別市	24,750	493	535	42
美幌町	21,575	1,699	1,228	△471
津別町	5,646	377	624	247
斜里町	13,045	270	742	472
清里町	4,551	296	225	△71
小清水町	5,358	380	289	△91
訓子府町	5,435	655	589	△66
置戸町	3,428	196	267	71
佐呂間町	5,892	151	321	170
遠軽町	22,265	885	645	△240
湧別町	10,041	480	771	291
滝上町	3,028	83	112	29
興部町	4,301	211	382	171
西興部村	1,135	45	43	△2
雄武町	4,939	114	151	37
大空町	7,933	612	993	381

（出典）平成22年国勢調査より作成

居住地から従業に来ている上位3市町

	佐呂間町から①	佐呂間町で従業②	比較 (②－①)
北見市	79	192	113
遠軽町	30	69	39
湧別町	19	32	13
その他	23	28	5
合 計	151	321	170

（出典）平成22年国勢調査より作成

○観光入込客数の推移

近年は、観光客の入込数は減少傾向にあります。

11月～4月は特に少なく、2月の流氷観光時に少し回復している程度です。

また、この期間は、町内で最も大きい宿泊施設が休業中のため、宿泊利用者も少ない状況です。

観光客入込数（千人）

	総数	宿泊	日帰り
平成22年度	223.8	20.2	203.6
平成23年度	204.7	22.3	182.4
平成24年度	208.0	25.2	182.8
平成25年度	205.0	24.8	180.2
平成26年度	198.2	20.7	177.5

（出典）北海道観光統計より作成

平成26年度月別観光客推移（千人）

	総数	宿泊	日帰り
4月	8.2	0.3	7.9
5月	28.2	2.7	25.5
6月	24.7	2.7	22.0
7月	29.5	3.9	25.6
8月	42.7	4.6	38.1
9月	31.2	2.9	28.3
10月	12.2	1.7	10.5
11月	6.9	0.4	6.5
12月	3.2	0.4	2.8
1月	2.1	0.3	1.8
2月	5.4	0.4	5.0
3月	3.9	0.4	3.5

（出典）北海道観光統計より作成

○合計特殊出生率の推移と道内各市町村との比較

2014年発表された合計特殊出生率では、佐呂間町は1.74で道内6位でした。

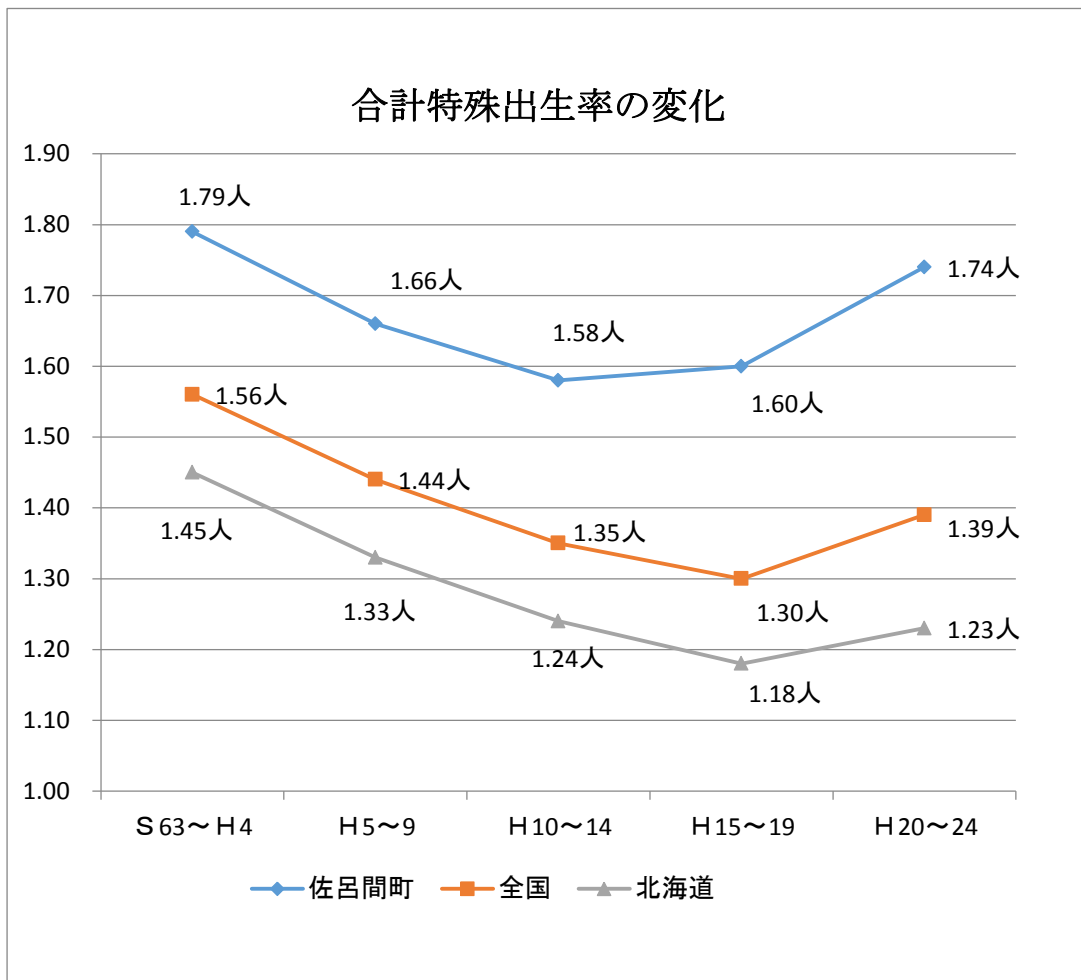
- ・出生率の高い市町村の特徴
 - ①第一次産業の就業者割合が高い
 - ②20代の有配偶者率が高い
 - ③三世帯同居率が高い
 - ④一部を除き、若年女性人口の減少率が高い（2010→2040推計）

道内における合計出生率の高い10市町村

順位	市町村名	合計 特殊 出生率 H20 ～ H24	人口	産業別就業者割合 (%)			有配偶者率 (%)		3世代 同居 割合 (%)	納税義務者 (所得割) 一人当たり 対象所得		若年女 性人口 変化率 (%)
				第1次 産業	第2次 産業	第3次 産業	20～ 24歳	25～ 29歳		所得 (千円)	順位	
	北海道	1.25	5,506,419	7.7	18.1	74.2	8.4	32.6	3.9	2,800	—	△47.5
1	えりも町	1.90	5,413	48.6	12.3	39.0	16.7	41.7	11.5	2,752	57	△55.0
2	別海町	1.86	15,855	40.9	13.1	46.0	15.5	44.6	12.3	3,067	15	△50.6
3	共和町	1.81	6,428	28.5	17.9	53.6	13.2	45.9	8.5	2,914	27	△73.1
4	日高町	1.80	13,615	31.5	13.6	54.9	16.3	37.2	5.0	2,728	69	△64.9
5	猿払村	1.75	2,825	33.4	27.6	39.0	11.2	50.0	6.1	4,506	1	△41.7
6	佐呂間町	1.74	5,892	32.0	23.9	44.1	16.1	50.4	8.7	3,178	9	△51.8
7	標茶町	1.73	8,285	33.5	12.5	54.0	22.3	42.0	8.3	2,749	59	△54.3
8	羅臼町	1.72	5,885	44.0	17.4	38.6	19.3	41.9	14.2	3,114	14	△74.9
9	大空町	1.71	7,933	40.7	11.3	48.0	16.7	44.6	12.3	2,770	49	△64.9
10	浦幌町	1.69	5,460	36.7	15.6	47.7	20.4	44.6	8.4	2,640	97	△65.5

(出典)「北海道における人口減少問題について」(北海道)、「統計で見る市区町村のすがた 2014」

(総務省)より作成



(出典)「佐呂間町子ども・子育て支援事業計画」より

合計特殊出生率	15歳から49歳までの女性の5歳ごとの年齢階層別出生率を合計したもので、一人の女性が仮にその年次の年次別出生率で一生の間に産むとしたときの平均子ども数に相当する。
---------	---

Ⅱ. 将来人口の推計と分析

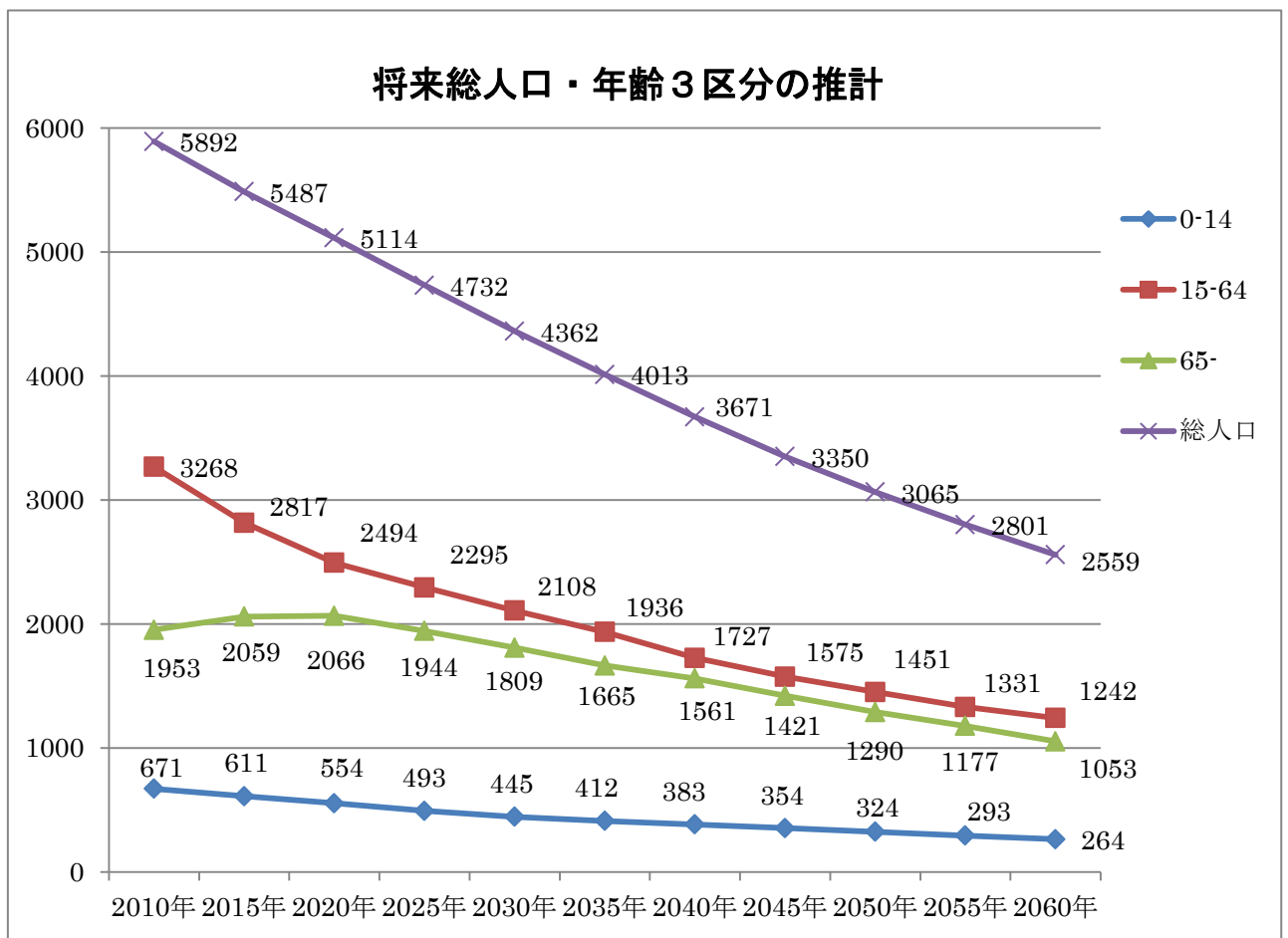
○将来人口推計

国立社会保障・人口問題研究所（以下「社人研」という。）の「日本の地域別将来推計人口(平成25年3月推計)」を参考とし、将来の人口分析を行います。

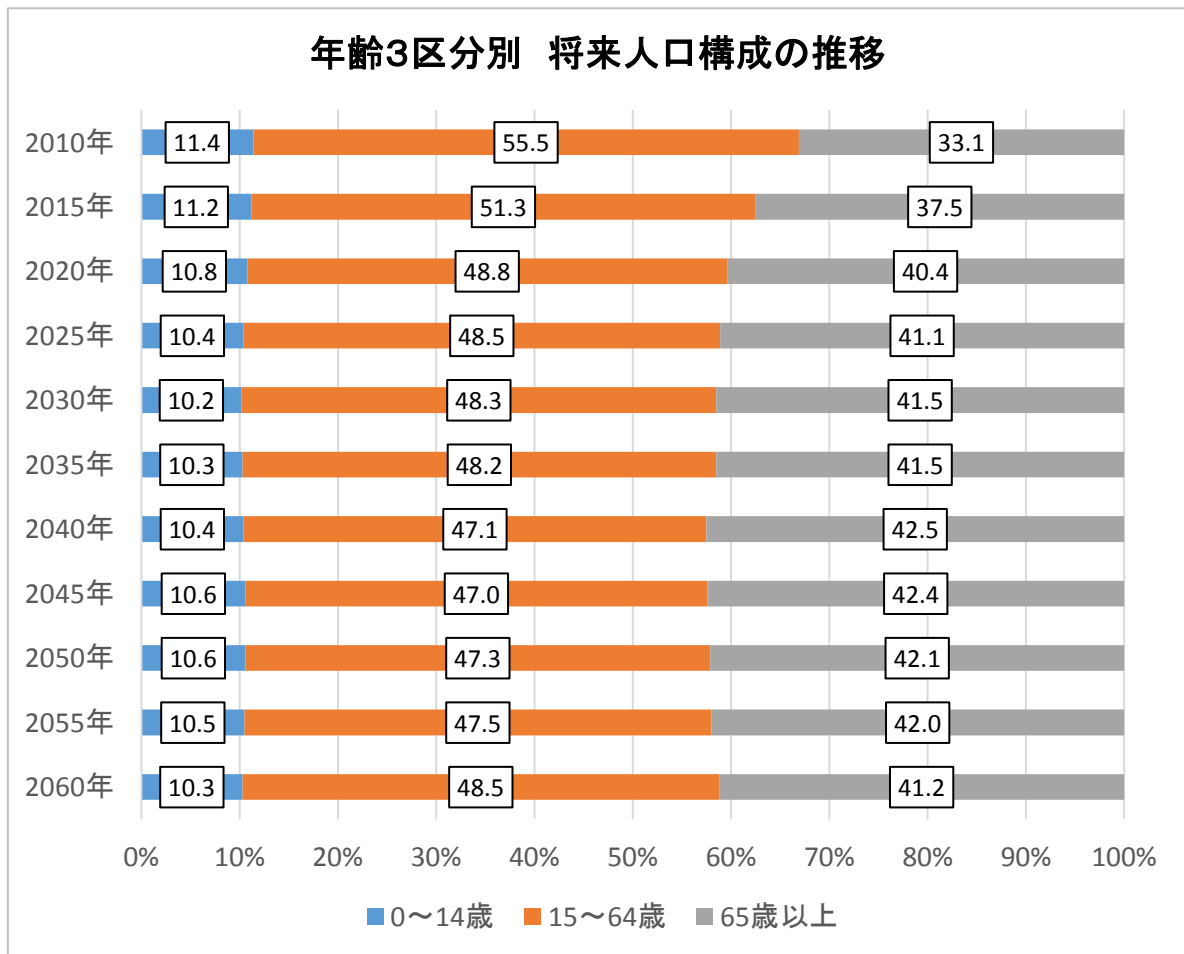
厚生労働省まち・ひと・しごと創生サポートプランの、人口減少3段階

- ①若年人口は減少するが、老年人口は増加する時期
- ②若年人口の減少が加速化、老年人口が維持から微減へと転じる時期
- ③若年人口の減少が一層加速化、老年人口も減少していく時期

本町の場合、2010年までは①から②への移行時期であったと見られますが、社人研の推計によると、2020年以降は老年人口も減少し、順次②・③の段階に突入していくことが予測されます。



(出典) 国立社会保障・人口問題研究所推計準拠により作成



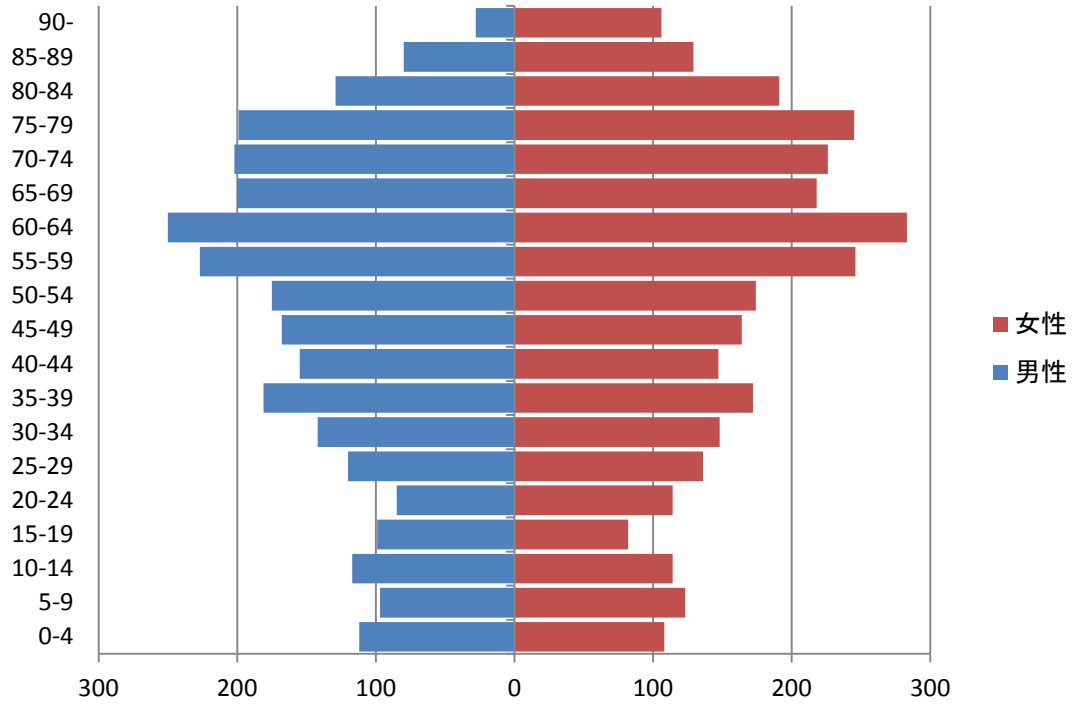
(出典) 国立社会保障・人口問題研究所推計準拠により作成

社人研の推計値を見ますと、人口は減少していきませんが、高齢化率は2040（平成52）年の42.5%まで上がり、以降は同程度で推移していくことが予測されます。

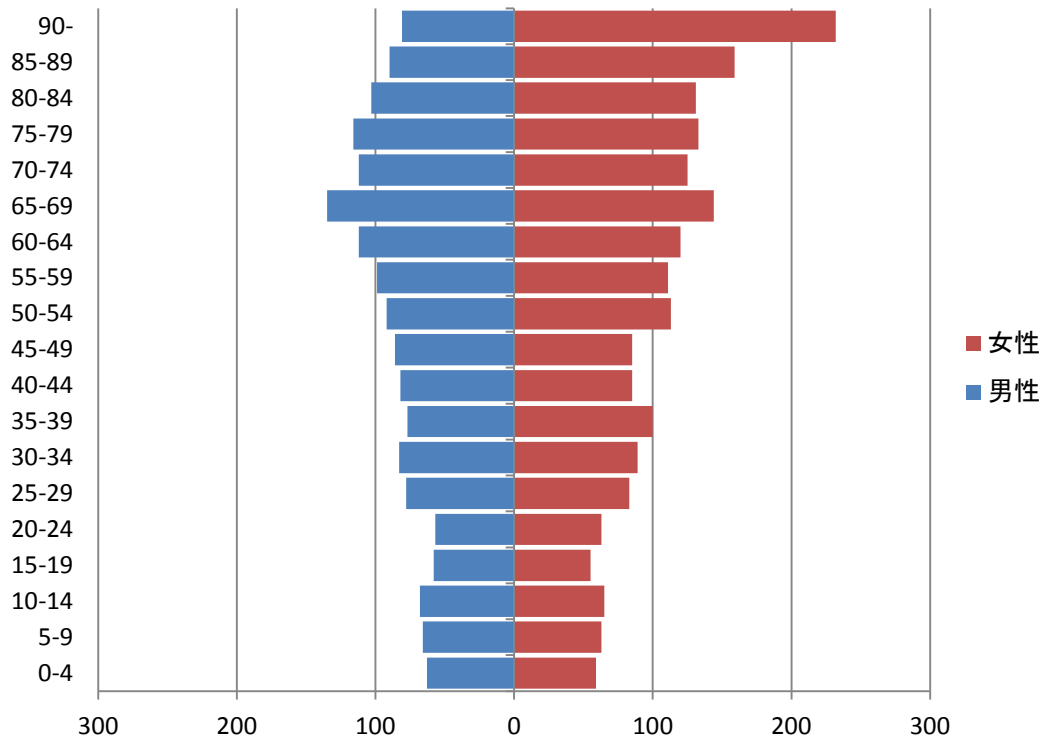
また、年少人口は10～11%の間で推移していくと見られます。

人口ピラミッド

2010年（平成22年）



2040年（平成52年）



また、これを2010年国勢調査の地区別・年齢別人口に当てはめていくと、計算上、次の表のとおりとなります。

地域別・年齢区分別人口推計

地区	年齢別	2010年	2020年	2030年	2040年	2060年
共立・大成・栄・啓生	0-14	24	20	15	11	8
	15-64	188	127	94	78	41
	65-	142	142	121	88	54
	計	354	289	230	177	103
中園・川西・栃木・若佐・武士・朝日・富丘	0-14	69	55	38	34	25
	15-64	365	241	183	154	115
	65-	311	301	252	185	94
	計	745	597	473	373	234
佐呂間市街北・東	0-14	385	298	222	196	138
	15-64	1,757	1,371	1,174	913	664
	65-	985	1,048	934	864	567
	計	3,127	2,722	2,334	1,974	1,370
知来・仁倉・浜佐呂間・幌岩・浪速	0-14	95	93	93	79	49
	15-64	515	410	340	314	223
	65-	337	344	295	231	184
	計	947	847	728	624	456
富富士・若里	0-14	98	86	77	62	43
	15-64	443	343	315	269	199
	65-	178	230	206	192	153
	計	719	659	598	523	395
佐呂間町全町	0-14	671	554	445	383	264
	15-64	3,268	2,494	2,108	1,727	1,242
	65-	1,953	2,066	1,809	1,561	1,053
	計	5,892	5,114	4,363	3,671	2,558

(出典) 国立社会保障・人口問題研究所推計準拠、2010年国勢調査より試算し作成

○将来の人口展望

佐呂間町の人口は、国勢調査から見ますと、1955（昭和30）年の15,656人をピークに減少し続け、2010（平成22）年には5,892人とピーク時の37.6%まで減少しました。

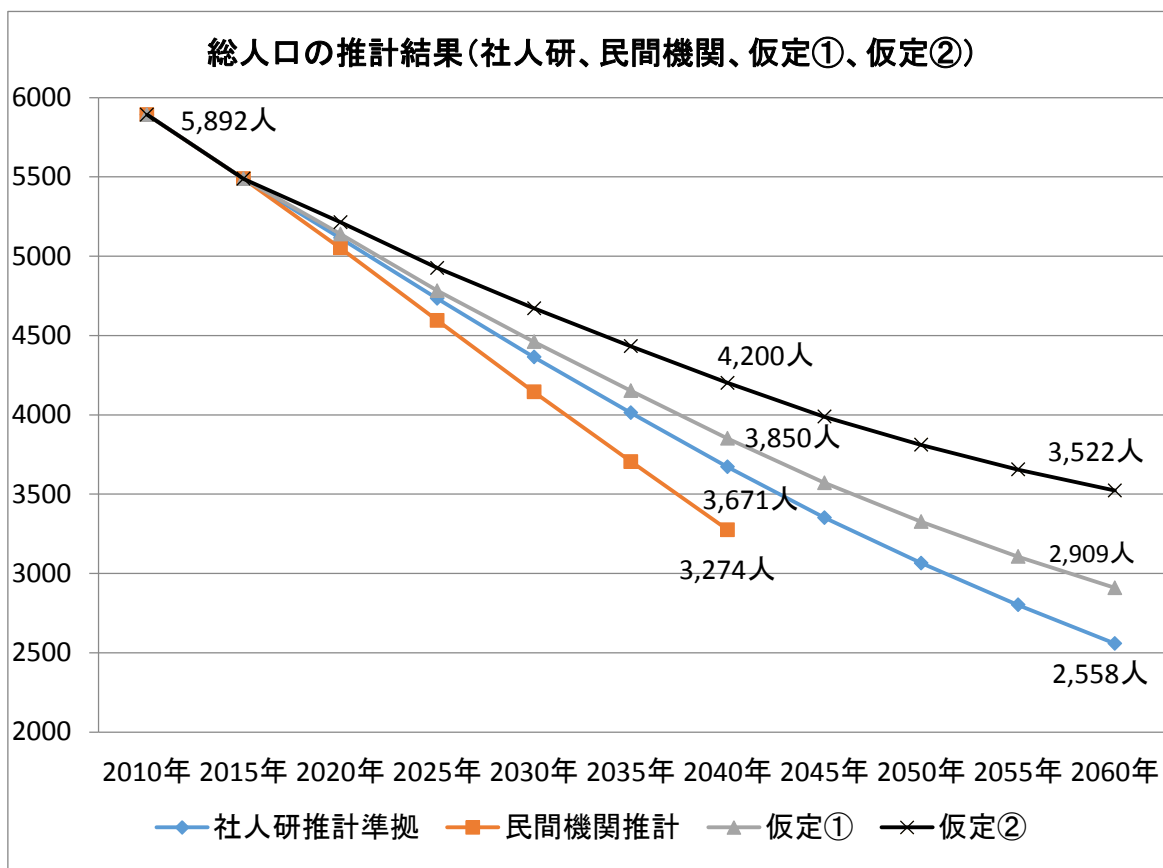
減少の原因は、出生数よりも死亡数が上回る「自然減」、他の市町村からの転入よりも町外への転出が上回る「社会減」の双方の影響によるものです。

人口減少問題を解決するにはこの2つの問題を考慮しなくてはならないところです。

そこで、先の「社人研」の推計、「民間機関」である日本創生会議による地域別将来人口推計、町独自による将来人口推計（仮定①・仮定②）を活用し、将来の人口に及ぼす出生や移動の影響等について分析を行います。

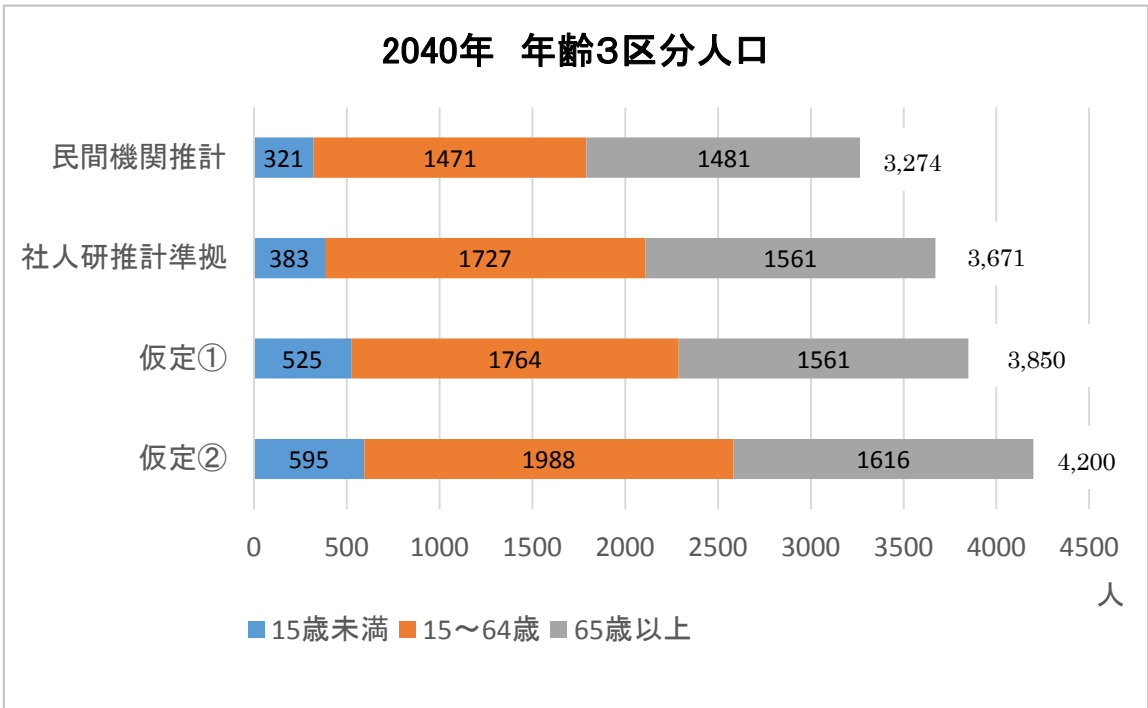
なお、仮定①については、社人研の人口移動データ等を基に、合計特殊出生率が改善した場合。

仮定②については、仮定①に加え、「社会減」の影響が少なくなった場合を想定しています。

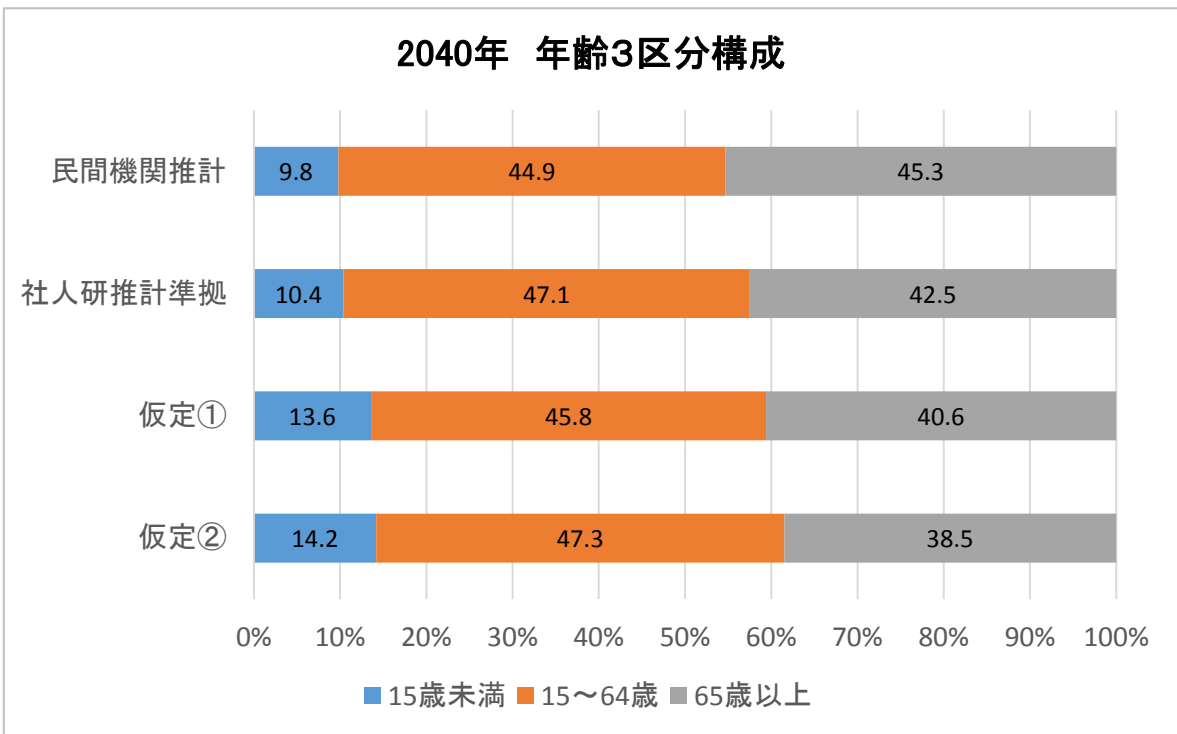


※仮定①：合計特殊出生率が2020年に1.8、2030年に2.07、2040年に2.1を達成した場合。

※仮定②：仮定①に加え、人口移動率の減少部分が、半分程度の数値になった場合。



※推計の端数処理により、内訳の合計と人口の数が合わない場合有。



4パターン提示しましたが、このままの状態が続いた場合、民間機関推計及び社人研推計のように、その減少スピードに差異はあっても、2040年には、総人口は3,000人台となり、15歳未満の「年少人口」及び15歳～65歳の「生産年齢人口」の割合が減り、65歳以上の「老人人口」の割合が増え、少子高齢化が益々進んでいくと予想されます。

また、実際にこのように人口減少が進んだ場合、次のような影響が予想されます。

- ・子どもの数が減ることによる学校の統廃合
- ・生産年齢人口（15-64歳）の減少による税収の減収及び行政サービスの低下
- ・農家戸数の減少による農地の遊休化の発生
- ・高齢化による社会保障の増大
- ・祭り等の地域行事の衰退

なお、これらの要因が、更なる人口減少を招く可能性もあります。

一方、仮定①のとおり合計特殊出生率が上昇した場合、高齢化率の伸びを抑えることが予測されます。

また、仮定②のとおり社会減（転入－転出によるマイナス）を抑えることができた場合、より一層、人口減少問題への効果が高いことが予測されます。

Ⅲ. めざすべき将来の方向

○基本的方向

佐呂間町の人口減少及び少子高齢化は以前より進んでおり、これから日本全体が人口減少社会へと突入している中、現在の人口より増えていくことは現実として考えにくい状況です。

また、人口が減少する要因は、「出生数より死亡数が多いこと」、「転入者数より転出者数が多いこと」の双方の影響によるものです。

人口問題はこれらを改善し、自然増と社会増の両面から考える必要があることから、これらの対策を重点的に進めることで、2060年までの人口減少をできる限り緩やかなものにし、さらにその後には右肩上がりとなるような対策を今から行なわなければなりません。

○人口の将来展望

・自然増への取組み

住民の結婚・出産・子育ての希望の実現を図り、合計特殊出生率の向上につなげます。

国の合計特殊出生率目標数値・北海道の仮定数値

2014年 1.42 (全国平均) 1.27 (北海道平均)

2030年 1.8程度 (国民希望出生率)

2040年 2.07程度 (人口置換水準)

これらを踏まえ、国の目標数値を10年前倒しで達成、2030年に「2.07」、2040年には「2.1」の達成をめざします。

2014年 1.74

2020年 1.80

2030年 2.07

2040年 2.10

・社会増への取組み

新規就農や新たな雇用の場を確保するなど移住対策を進め、転入者を増やすとともに、就職等による他市町村への転出を減らすことで、転入・転出の差を減らしていきます。

このことにより、将来の総人口を

2040年に、『4,000人』、

2060年に、『3,000人』を維持することを目標とし、

今後この達成に向けた取組を『佐呂間町総合戦略』により実行していきます。

第2章

佐呂間町総合戦略

I. 基本的な考え方

○趣旨

国勢調査から見る佐呂間町の人口は、昭和30（1955）年の15,656人をピークに減少し続けています。また、平成7（1995）年には老年人口（65歳以上）が年少人口（0～14歳）を上回り、平成22（2010）年には老年人口割合が30%を超える状況となりました。

人口減少には様々な要因があると考えられますが、大きな要因として、学卒者の町外への進学・就職による転出、少子高齢化による減少が挙げられます。

また、基幹産業の農業では、土地の集約化・大規模化の推進により、一戸当たりの耕作面積・農業所得の増大が図られていますが、一方、農家戸数の減少が目立つこととなりました。

人口減少が続くと、消費市場の縮小や人材不足、景気低迷など地域経済の縮小につながり、高齢化の進展もあいまって、さまざまな地域社会の基盤の維持が困難となります。

このような、「人口減少が地域経済の縮小を呼び、地域経済の縮小が人口減少を加速させる」という負のスパイラルに歯止めをかけ、佐呂間町が将来にわたり、住みやすく魅力あるまちであり続け、人々が安心して生活を営み、子どもを生み育てられる環境の整備が急務です。

このことから、「佐呂間町地域創生総合戦略」を策定し、人口減少や少子高齢化が進むなか、次世代においても、自立性・持続性を確保できるよう、まち・ひと・しごとの創生に取り組むため、今後5年間の目標や施策の主な取り組み等をまとめるものです。

○計画期間

平成27年度～平成31年度の5年間

○総合戦略の位置づけ

国の「まち・ひと・しごと創生法」の目的に則り、佐呂間町人口ビジョンで示した将来人口の実現に向けて、今後5カ年の目標や具体的な施策・事業をまとめたものです。

また、国や北海道の「総合戦略」を勘案するとともに、「第4期佐呂間町総合計画」、「佐呂間町子ども・子育て支援事業計画」等の町の個別計画との整合性を図り策定します。

○目標設定と進捗管理

本計画では、基本目標ごとに実現すべき目標数値を設定するとともに、具体的な施策ごとに重要業績評価指標（K P I）※ を設定します。

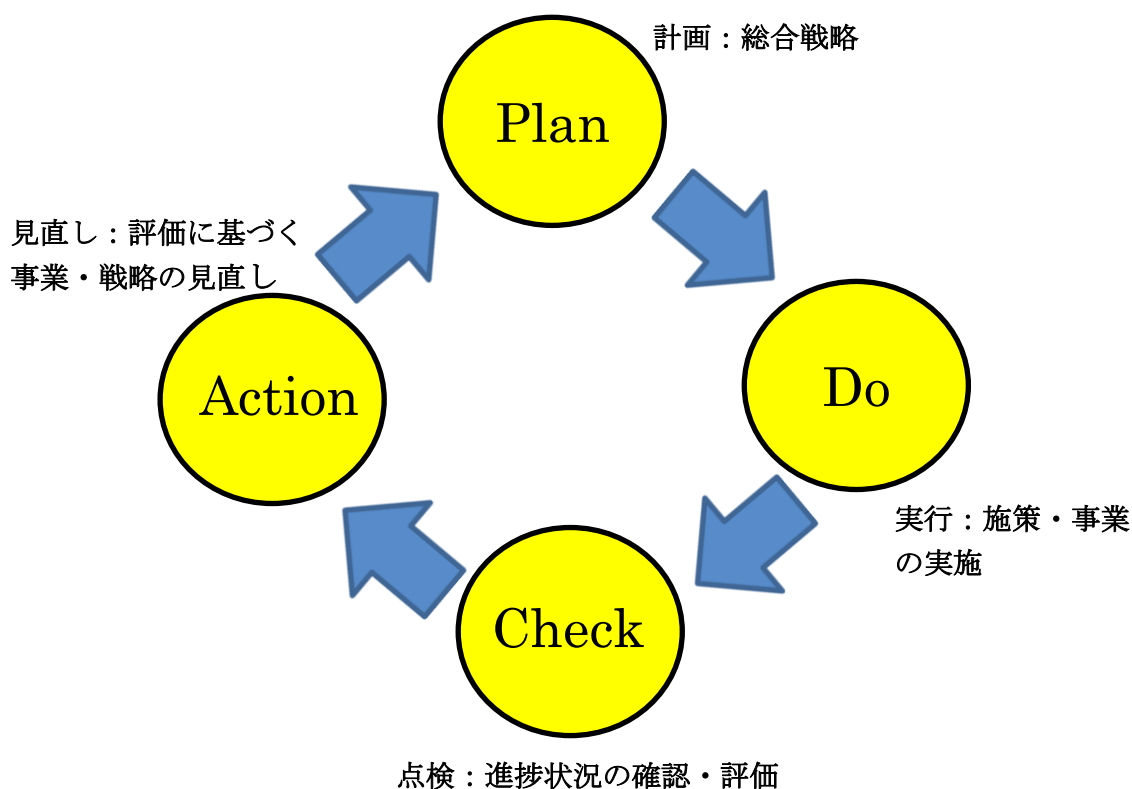
また、P D C Aサイクル※ を確立し、施策の効果等検証し、計画を効果的かつ着実に実施するとともに、必要に応じて総合戦略を見直すこととします。

※ 重要業績評価指標（K P I : Key Performance Indicator）

施策についてその目標の達成度を検証するために設定する客観的な指標

※ P D C Aサイクル

Plan（計画）、Do（実施）、Check（評価）、Action（改善）の4つの視点を取り込むことで、継続的な改善を推進します。



Ⅱ 基本方針

まち・ひと・しごと創生の政策5原則

本町の戦略を実現するため、国の総合戦略で掲げている「政策5原則」に基づき、施策を展開していきます。

①自立性

施策の効果が、地域内の企業・個人に直接利するものであり、国の支援がなくとも事業が継続する状態を目指し、これに資するような具体的な工夫をなして、地域の自立をめざします。

②将来性

自主的かつ主体的に、地域の夢を実現していく。
地域産業の維持・創出を図り、地域の絆で心豊かに生活できる環境の実現をめざします。

③地域性

地域の客観的データに基づき実状分析や将来予測を行い、本町の実態に合った施策を展開していきます。

④直接性

限られた財源や時間の中で、最大限の効果を上げるため、ひとの移転・しごとの創出やまちづくりを直接的に支援する施策を集中的に実施していきます。
また、産官学金労との連携により、施策の効果を高める工夫に努めます。

⑤結果重視

明確なPDCAメカニズムの下に、短期・中期の具体的な数値目標を設定し、政策効果を客観的な指標により検証し、必要な改善等を行います。

Ⅲ 基本目標

国の「総合戦略」では、4つの「基本目標」を設定し、地方における様々な政策による効果を集約し、人口減少に歯止めをかけ、「東京一極集中」の是正を着実に進めていくこととされています。

佐呂間町においても、これに沿った以下の4つの基本目標を設定します。

<基本目標1>地域に安定した「しごと」産業と雇用を創出する

基幹産業である農業・漁業や町内商店街・建設業等の振興により、若い世代が安心して「しごと」に就くことができるよう雇用の創出を図ります。

<基本目標2>地域への新しい「ひと」の流れをつくる

佐呂間町を知り、関心を持ってもらうことで、交流人口を増加させ、また、佐呂間町に住むことを検討している人たちの受け皿を整備することで、「ひと」の流れをつくり、移住・定住の意欲につなげます。

<基本目標3>若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえる

結婚・妊娠・出産・子育てと切れ目のない一貫した支援を行なうことで、夫婦が希望する安心して子どもを産み育てられる環境をつくりま

<基本目標4>時代に合った「まち」をつくり、安心なくらしを守る

地域と地域を連携する

誰もが、安心安全で快適に住み続けられる「住みよいまち」の実現に向け、「自助・共助・公助」の「まち」づくりをめざします。

また、近隣市町村との連携を進めていきます。

IV 具体的な施策

基本目標 1 地域に安定した「しごと」産業と雇用を創出する

本町では、15歳～24歳までの転出超過が他の世代に比べ突出して多く、その大半は学卒者の転出と思われます。その要因として、進学とともに希望する就職先不足の面も推測されます。

このことから、安定して就労できる環境を創出するため、関係機関と連携しながら、雇用の場の確保及び就労の安定化を促進するとともに、基幹産業の担い手の育成・確保、起業の促進などに取組みます。

一方、雇用があっても労働希望者がいない状況もあり、農産・水産加工施設においては、労働者を募集しても、労働希望者が集まらず、水産加工場では海外からの研修生が重要な労働力となっています。

また、町外への消費流出防止対策やインターネットなどの情報発信を充実させ、町内の購買力を高め、町内商工業の強化に努める必要性があります。

数値目標	基準値	目標値 (H31)
農業生産額	(H27) 9.4億円	基準値を維持
漁業取扱額	(H27) 3.3億円	基準値を維持
製造品出荷額	(H26) 45.3億円	基準値を維持

重要業績評価指数 (KPI)

- ・新規就農者数 (H27～31) 2名 (H22～26: 2名)
- ・漁業個人経営体 (H31) 95を維持
- ・商工会会員数 (H31) 170以上を維持 (H27: 174)

◆主な取り組み

基幹産業である農業・漁業の活性化

- ・新規就農者支援事業
- ・農業後継者育成対策支援事業
- ・農作業機械化推進奨励事業
- ・水産業担い手育成対策
- ・漁業関連施設の整備・充実

商店街活性化対策の推進

- ・町内プレミアム商品券の発行
- ・地域特産品通販システム事業

中小企業の振興

- ・住宅建設促進事業
- ・佐呂間町中小企業振興事業
- ・経営指導体制強化の促進
- ・担い手育成対策の推進
- ・若年勤労者雇用促進支援事業

基本目標 2 地域への新しい「ひと」の流れをつくる

平成 26 年 12 月、オホーツク A I 推進協議会によるオホーツク認知度調査（関東 500 人、関西・中部 500 人対象）によると、佐呂間町の認知度 24.6%、サロマ湖の認知度は 50.8%と、半数の方が「サロマ湖」を認知していました。

「サロマ湖」のある「さろま」と名のついた「まち」というブランドを活かし、交流人口を増やすとともに、移住・定住へとつながる流れをつくります。

特に、年齢別人口割合の低い 20 代の方が、「住みたい」、「働きたい」と、U I J ターンを考えてもらえる施策を推進し、移住希望者への移住関連情報の整備・強化に努めます。

また、町内従業者の中には、住宅事情により町外からの通勤者も多いことから、住みやすい住宅環境整備の促進を図ります。

数値目標	基準値	目標値（H31）
転出超過人数	44人 (H26 外国人除く)	40人以内
観光客入込数	204千人 (H24～26 平均)	210千人以上

重要業績評価指数（K P I）

- ・ サポーターズ倶楽部会員数 （H31 までに） 3, 500 人
- ・ 移住体験住宅受入件数 現在 0 件 → (H31) 5 件
- ・ サロマ湖展望台入込数 (H26) 5, 373 人 → (H31) 6, 000 人

◆主な取り組み

移住・定住の促進に向けた体制の強化

- ・ 佐呂間町サポーターズ倶楽部事業
- ・ 空き家バンク事業
- ・ 移住生活体験推進事業
- ・ 移住情報発信及び受入体制の整備
- ・ 定住促進給付金支給事業
- ・ 単身者用住宅の整備事業

観光産業の促進・強化

- ・佐呂間町サポーターズ倶楽部事業【再掲】
- ・商工業活性化事業
- ・観光資源強化事業
- ・物産館みのり特産品等販売強化事業
- ・佐呂間町魅力P R 事業
- ・サロマ湖サンゴ草再生事業
- ・郷土文化資料P R 事業
- ・冬の観光事業の検討
- ・ふるさと会との連携による首都圏でのイベント・P R 活動
- ・他自治体や関係機関と連携した観光事業の推進

住宅環境の整備

- ・住宅建設促進事業【再掲】
- ・空き家バンク事業【再掲】
- ・民間住宅建設の促進
- ・公営住宅の計画的な建替えと維持管理の推進

基幹産業の活性化

- ・新規就農者支援事業【再掲】
- ・農業後継者育成対策支援事業【再掲】
- ・農作業機械化推進奨励事業【再掲】
- ・水産業担い手育成対策【再掲】
- ・漁業関連施設の整備・充実【再掲】

基本目標 3 若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえる

この数年、結婚は年間20組前後で推移し、出生は30人以上を維持していましたが、平成26年の出生数は27人となりました。

人口ビジョンでは、今後も出生数は減少していくことが予測されます。

この流れを変えるため、結婚を希望する人が、出会い・結婚できるよう支援します。

また、妊娠・出産・育児の経済的支援や子育て支援の充実を図り、希望する人がより多くの子どもを持てるような環境を整備することで、親が誇りを持って子育てできるまちづくりをめざします。

数値目標	基準値	目標値 (H31)
合計特殊出生率	1.74	1.80

重要業績評価指数 (KPI)

- ・結婚組数 (H26) 22組 → (H31) 25組
- ・出生数 (H26) 27人 → (H31) 35人

◆主な取り組み

結婚に関する情報・出会いの場の提供

- ・結婚に関する情報提供
- ・まちこん開催支援事業

出産や子育てがしやすい環境の整備

- ・不妊治療対策事業
- ・妊婦健診助成事業
- ・出産祝い金支給事業
- ・地域子育て支援拠点づくり事業
- ・保育所の整備充実
- ・保育所遠距離通所世帯対策事業
- ・乳幼児一時預り、病児・病後児保育事業
- ・保育料負担軽減助成事業
- ・乳幼児等医療費助成事業
- ・放課後児童健全育成事業
- ・ふるさとまちづくり事業による各種研修事業
- ・子育て世代住宅建設促進事業

魅力ある教育環境の整備

- ・新入学児童少人数教育支援事業
- ・小中高の連携強化
- ・学校施設の整備充実
- ・佐呂間高校生資格試験等支援事業
- ・高校存続への対策強化

**基本目標 4 時代に合った「まち」をつくり・安心な暮らしを守る
地域と地域を連携する**

町内の医療機関は、診療所1ヶ所、歯科医院3ヶ所が運営されています。
 今後も医療体制の確保・充実及び広域医療体制の充実を図ります。
 また、町民が自主的に健康づくりに取り組める環境づくりをめざします。
 少子高齢化の中、高齢者だけの単身・夫婦世帯が今後も増えていくことが予測されることから、高齢者が安心して生活できる環境の整備に努めます。
 また、高齢者を見守る地域の主体的な取組を支援し、持続可能な地域コミュニティの形成を図ります。
 これら地域の課題を解決するため、近隣自治体との連携を進め、さらなるまちの活性化を図ります。

数値目標	基準値	目標値 (H31)
住みよいと感じる町民の割合	(H21) 66.93%	70%
サロマゲンキマイレージ事業利用世帯	(H26) 106世帯	120世帯
65歳以上の要介護認定率	(H26) 約19.2%	20%以内を維持

重要業績評価指数 (KPI)	
・健康教室参加者数	(H26) 1,124人 → (H31) 1,200人
・ふれあいバス利用者数 町内線	(H26) 78,644人 → (H31) 79,000人

◆主な取り組み

災害に強いまちづくりの構築
・防災体制の充実・強化

地域医療の確保と保健事業の推進

- ・クリニックさろま医療体制の充実
- ・健康づくり推進事業

地域公共交通の充実

- ・ふれあいバス運行事業
- ・町外との交通アクセスの利便性の向上検討

地域高齢者の生活支援

- ・ふれあいタクシー運行事業
- ・地域コミュニティの活性化対策事業
- ・高齢者低家賃集合住宅整備事業
- ・介護従事者育成支援事業

他自治体との連携

- ・遠軽町・湧別町との地域連携事業
- ・周辺自治体との地域連携事業

おわりに

国における人口減少は始まったばかりですが、佐呂間町においては既に半世紀にわたりこの問題に対応してきたところです。

しかしながら、人口は減り続けてきました。

これまでも減少してきたのだから何をやってもだめだと、このまま何もせずにいると、人口ビジョンで示されたとおりの未来が現実となるだけです。

現在の地方創生という追い風に乗れ、町民が一体となりこの人口減少という向かい風に立ち向かっていくことで、減少のスピードを押さえ、少子高齢化を緩和し、人口が減少していく中でも、地域の活性化が図られるものと考えます。

佐呂間町では、2013（平成25）年に市内の観光・広報・企画担当による「佐呂間町まちおこしプロジェクト会議」を開催。地域資源の発掘・情報発信等について話し合いをしてきました。

2014（平成26）年度に、「ふるさと納税にかかる特典の贈呈」をスタート。2015（平成27）年からは、町外の方を対象とした「佐呂間町サポーターズ倶楽部事業」を開始し、全国に向け佐呂間町をPRしているところです。

また、小学校の廃校後も、地域の運動会やお祭りなど地域活動が衰退することなく活動している地域では、農業後継者の結婚等により、20代の若者が増えている状況にあります。

このことは、今後の人口問題へのひとつの突破口として、行動することが無駄ではないということを示しているように感じられます。

このような動きが町全体へと広がっていくことと、この「佐呂間町地域創生総合戦略」の着実な実行によって、『まち』・『ひと』・『しごと』が輝く未来のサロマをめざします。

参 考 资 料

人を呼び込むまちづくりの技法

「ないものねだり」から「あるもの探し」へ

地勢・地形・自然・海・川・道路・
鉄道など現実の形となっているもの

サロマ湖・サロマ湖展望台・ピラカ展望台・キムネッポ岬・
キャンプ場・サンゴ草・グラティア上のテニスコート斜面・湖畔幌
岩山遊歩道・パークゴルフ場・テニスコート・スキー場・100
年広場・スター・道の駅・旅館・ホテル・鉄道車両・総合公園・町営牧場・農道・開拓資料館・サイロ・栃木多
聞寺・森永工場・かぼちや工場モニュメント・地場産品加工セン
ター・旧若里小学校・ルクシ峠旧道・メガソーラー発電所

- ・湖畔遊歩道から水辺に
つながる通路の整備
- ・フットパスルート拠点
へのトイレ整備
- ・町外公共交通網

素朴な自然と人とのふれ
あい、その土地の風土に
触れる中に本当の観光が
ある

地域の骨格

個性を
魅力として
地域価値を高め情報発信

地域資源及び観光産業の付加価値向上

クーポン券・レンタル
(電動) サイクル・
HP フォトギャラリ
ー・観光ガイド・体験
型慣行メニュー
協働のまちおこしの
姿勢

タウンプロモーション

地域資源

地域特性

スノーシュー体験・
サロマ湖ネットカメ
ラ・道の駅サロマ湖
パノラマスクリーン
フットパスルート
・湖畔遊歩道
・幌岩山登山道
・佐呂間市街～
旧富丘牧場頂上
※植樹祭と一体的に
長期的な計画で
エリアづくり
・仁倉浜8線道路奥湿地
地産地消の場

歴史・文化・自然風土・伝
統芸能・食文化・暮らしの
スタイルなど、人間の営み
の中で形成され継承され
てきたもの

地域の固有性・ブランド・郷土愛・
まちへの愛着と誇りなどの精神文
化による価値

100kmマラソン・シンデレラ夢
まつり・大収穫祭・そば屋・お菓子
屋・焼肉屋・ホタテ・カキ・かぼち
ゃ・牛乳・ホッカイシマエビ・浜の
母さんホタテまぜご飯・サロマ豚・
麦畑・牧草ロール・栃木の歴史・湧
網線廃止の歴史・開拓の歴史話・ホ
タテ養殖発祥の地・ブルムホール・夕
日・ももちゃん・デイズニセル画、
クリスタルアートプリント画

観光パンフレット・お店選び情報
ガイドブック・フォトコンテス
ト・ホームページ・ブログ・You
Tube・Facebook・ももちちゃんマ
ップ・さろまむかしむかし・さろ
ま物語・サロマ湖の風・ちびっこ
探検学校
ーご当地ソングー
「君のサロマ」「サンバ・サロマ」
「サロマの海」



とんどんサロマがすきになる 佐呂間町サポーターズ倶楽部



入会無料

ももちゃんグッズの特典があります
佐呂間町外にお住まいの方が入会できます
詳しくは佐呂間町公式HPをご覧ください

■あなたと佐呂間町の幸せを結ぶ“心のきずな”

「佐呂間町がふるさとという方」「佐呂間町に行ったことがあるという方」「テレビや新聞で佐呂間町を知ったという方」「佐呂間町に友達がいるという方」「たまたま、サポーターズ倶楽部のPRで関心を持った方」など、全国の皆さんに佐呂間町を応援してもらいたい。そして、もっともっと佐呂間町の魅力にハマってもらいたい。

いや、佐呂間町のとりこにしてみせる！

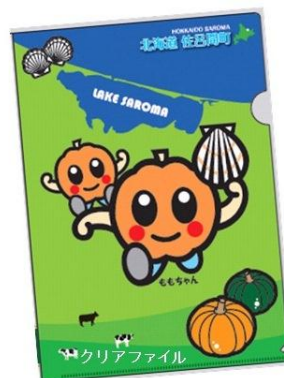
そして、皆さんの幸せづくりのお役に立たせてください。

そんな思いをもって佐呂間町サポーターズ倶楽部の取り組みを始めました。

◆登録資格 佐呂間町民以外の満18歳以上の方
(個人に限ります)

◆登録料 無料

◆登録期間 無制限



◆特典

- ①会員証を贈呈します
- ②佐呂間ゆるきゃら「ももちゃん」グッズを贈呈します
- ③サロマ四季だよりをお届けします
- ④ふるさと特産品情報をご提供します
- ⑤会員限定の特産品抽選会を開催します
- ⑥佐呂間町内でのお買い物5%割引サービスが受けられます(協力店限定)
- ⑦佐呂間町内飲食店でワンドリンクサービスをご提供します(協力店限定)
- ⑧サロマ応援イベントをご案内します
- ⑨佐呂間町内へ宿泊された方に特産品を贈呈します

◆サポーターの方へのお願い

- ①皆様がお住いの地域等において佐呂間町を積極的にPRしてください
- ②佐呂間町特産品を積極的に購入してください
- ③佐呂間町へどんどんお越しください
- ④可能な方は佐呂間町のイベントなどにご協力ください

「ももちゃん」は1994年佐呂間町開基百年のイメージキャラクターとして誕生して以来町民に親しまれてきました。百を「もも」と呼んで名付けられました。佐呂間町特産のかぼちゃとホタテをイメージしており、現在は佐呂間町の公認「ゆるきゃら」です。

◆申し込み方法

1. 電話・FAX・郵送・メールで登録申込書をお送りください

●電話番号 01587-2-1214 (企画財政課直通)

「サポーターズ倶楽部の登録」と教えてください

受付時間: 平日8:30~17:15

●FAX 01587-2-3368

●郵送 〒093-0592

北海道常呂郡佐呂間町字永代町3番地1

佐呂間町役場企画財政課さろサポ係

●メール sarosapo@town.saroma.hokkaido.jp



2. 佐呂間町公式ホームページからダイレクトで申し込みができます

「佐呂間町サポーターズ倶楽部」でネット検索してください



佐呂間町サポーターズ倶楽部に登録をいただいた皆様からのメッセージ

- ◆佐呂間町サポーターズ倶楽部の創設おめでとうございます。北海道一人旅をしていた33年前、台風の影響で国鉄湧網線が不通となり、知来（佐呂間町内の地名：ちらい）駅で出遭った酪農家に一宿一飯を頂いた思い出があります。それからというもの佐呂間町を第二の故郷と位置づけて、付き合いは今日に至っています。更なる帰町の魅力をPRし、多くの佐呂間ファンが増えることを願っております。（神奈川県 50代男性様）
- ◆佐呂間を離れて25年経ちましたが、今も時々佐呂間で暮した11年間の思い出しています。町の多くの人たちに助けられてかわいい子ども達と楽しく仕事できたことが一番心に残っています。また、朝野球や朝ソフト、かぼちゃ祭り、スキー大会、サロマ湖のホタテ拾いなど、思い出は尽きません。佐呂間町がいつまでもエネルギッシュな町でありますように応援します。（北見市 60代男性様）
- ◆「冬湖（とうこ）」我が家の娘はサロマ生まれです。（札幌市 50代男性様）
- ◆ここ数年サロマ湖ウルトラマラソン 50kmの部（佐呂間町スタート）に参加させていただいています。スタート時の皆さんの温かさ、エイドで頂いたお水がとても美味しかった事ですっかり佐呂間町のファンになりました。（東京都 KIMU様）
- ◆風光明媚、美味しいものが沢山、温かい人が沢山の佐呂間町が大好きです！！（北見市 40代男性様）
- ◆佐呂間町の地域づくり活性化に協力できるように応援します！（旭川市 50代男性様）
- ◆北海道で遊ばせてもらって20年以上。サロマを拠点にしてからも15年以上になります。交通事情の激変で陸の孤島化しつつありますが、昔と何も変わらないところは大きな魅力です。（京都府 50代男性様）
- ◆24年前に半年間だけ居させてもらいました。行者にんにくやホタテの稚貝など色々いただきました。浜サロマでは生きているシマエビを始めて見ました。生のシマエビは格別だったと記憶しています。気候も良く食べ物も美味しい、人も温かい。佐呂間大好きです。サポーターズします。（音更町 50代男性様）
- ◆ほぼ週間さろま（メールマガジン）の記事から佐呂間町サポーターズ倶楽部を知りました。故郷である佐呂間町に対し、微力ながら何かできればいいなと思い申込みをさせていただきます。（北見市 40代男性様）

- ◆北見市から佐呂間町へ仕事に通っている者です。佐呂間のために何かしたいと思いながら、できることは本当に限られていました。今回、このような形でサポーターになれて嬉しいです。(北見市 40代女性様)
- ◆仕事でよく佐呂間町へ行くのですが、サロマ湖の眺望や美味しい食べ物にいつも感動しています。是非応援させてください。(北見市 20代男性様)
- ◆風景良し、食良し、そして人も良し。そんな佐呂間に渡道の度に何度も訪れています。近年は訪れる度に「帰ってきた」感が半端なく、なってきました(笑)(三重県 なむ様)
- ◆元町民です。佐呂間は美味しいものがたくさん採れるところなので、その良さをPRしています。中元、歳暮は佐呂間の特産品を送っていますよ。(札幌市 40代男性様)
- ◆子どもの頃住んでいました。佐呂間町がもっと元気になるように応援します！(群馬県 カンコ様)
- ◆毎年何回かバイク、車で北海道に行っています。よく徒歩宿のサロマニアンに泊まっています。サロマ町大好きです！サロマ町頑張ってください！(埼玉県 50代男性様)
- ◆佐呂間の人もサロマ湖もとっても素敵で、大好きな町です。ホタテも牡蠣も美味しく、佐呂間産を食べると他所の物が食べられなくなります。カボチャもホクホクで美味しいです。(愛知県 もみじ様)
- ◆いつもフェイスブックで佐呂間町の様子を拝見しています。10年前に亡くなった父が佐呂間町出身でした。私も里帰りを兼ねて幼少、小学生、中学生と3度ほど訪れたことがあります。遠方に居りますので中々訪れることはできませんが、いずれまた訪問したいと企画を温めております。(福岡県 40代男性様)
- ◆佐呂間で生まれ、高校を卒業するまでの18年間を佐呂間で過ごしました。札幌での暮らしの方が遥かに長くなりましたが、故郷が忘れがたく、本籍だけは佐呂間に残してあります。
子供の進学、就職などで戸籍抄本等が必要なこともあり、本籍を移そうかと考えたこともありましたが、役場の方がすぐに対応して下さいますので助かっています。今般、たまたま通っている友達の店でパンプレツとを見て、懐かしく思って申し込みました。貴倶楽部の隆盛と佐呂間町の永遠の繁栄を祈念しております。(札幌市 60代男性様)

- ◆小学校6年間を過ごした懐かしい佐呂間。その後、北見、札幌と居を移しても、心のふるさととして私の中に息づいています。夏冬の寒暖の差が60℃もある佐呂間で子ども時代を過ごしたことが自分の中の「頑張る力」を培ってくれたように思います。私の大切なふるさと佐呂間町がいつまでも元気であってほしい。そのために、何かお手伝いのできたらな、と思っています。(札幌市 40代女性様)
- ◆ウルトラマラソンがきっかけで、佐呂間町のトリコ。元気な佐呂間を応援します！(神奈川県 TARA様)
- ◆サロマ湖沿岸の景色や観光スポットに魅せられた一人です。毎年夏にはサロマ湖に行き、リフレッシュさせていただいています。さらなる発展を期待し、協力できることがあればと思い申し込みをいたします。(千葉県 40代男性様)
- ◆遠くからですが応援しています！北海道へ行く時には必ず立ち寄りお気に入りの場所です。道の駅の充実はありがたいです。また行きます！(東京都 40代 男性様)
- ◆おもしろい企画ですね。オホーツクの網走に居たこともあり、町内に親類もいるので応援したい。ジャイアントカボチャでも有名な町が以前テレビで放送されていました。婚活イベントでも若者が頑張っていましたね。(札幌市 50代男性様)
- ◆サロマ湖100kmウルトラマラソンで毎年訪れています。今年が20回目、30回記念大会が自分も節目の年となり嬉しく思っています。サロマは自分の第二の故郷。生き方と価値観を大きく変えてくれたところ。自分の一年は佐呂間に終わり、そして新しい年がここで始まる、そんな思い出の深い場所なのです。福島は風評が続き、復興も緒についたばかりでまだまだ厳しい状況が続いていますが、サロマで英気を養って日々頑張っていきますよ。大好きなサロマの大地と海を思い浮かべながら。(福島県 50代男性様)
- ◆子どもの頃から大好きな「かぼちゃ」が街中にあふれている佐呂間町。幌岩山からの景色もお気に入りです。これからも応援します！(網走市 あき様)
- ◆故郷である佐呂間町の応援に少しでもなればとサポーターズ倶楽部に申し込みます。(札幌市 50代男性様)
- ◆私は「こういうもの」を待っていました！サンバサロマでオホーツクを盛り上げましょう！(網走市 30代男性様)
- ◆初めてサロマにお邪魔したのは1980年。それから35年間毎年のように、ここ10年くらいは年に3、4回伺わせてもらっています。好きです、サロマ。(愛知県 50代男性様)

- ◆佐呂間は、今では子ども3人の母となった娘と妻と3人で観光した思い出の深い地です。できたら孫たちと佐呂間を訪れて、美しい夕陽と緑の豊富な大自然を体験させたいと思います。頑張れ佐呂間町！（東京都 60代男性様）
- ◆夫のサポートに昨年に続き2回目のサロマ100kmマラソン。緑、空、空気、花、湖、そして人。全てが素敵すぎました！最高じゃなくて「最幸」でした。（札幌市 キリンのシャボン玉おばさん）
- ◆100kmウルトラマラソンに参加しているので心の中にはいつもサロマがあります。雪や竜巻のニュースを見て地元の方は大丈夫か、エイドで頑張ってくれている学生の子どもたちは元気にやっているかな。ワッカはもう花が咲き始めているかな、ワシは元気に飛んでいるか、など。
行っていない時でもサロマが出てこない時はありません。今までサロマからたくさんの優しさと厳しさをもって、ついに来年サロマンブルーになります。これからもサロマの大自然と心の美しい人々から「生きることの素晴らしさ」を教えてもらいに行きます。
オホーツクの風が私の体じゅうに染み込んで、きっと細胞の一部になっているので、6月には必ずふるさとのように帰ります。みなさんの笑顔に出会うために。（大阪府 40代男性様）
- ◆大学の卒論を書くためにサロマに行きました。あれからもう10年・・・サロマの方々の優しさと、あの時の思い出が今でも大事な大事な宝物です。そして、第2の故郷、サロマが大好きです。必ずまた遊びに行きます。（京都府 Nozo様）
- ◆美味しい食堂も多く利用しています。佐呂間町サポーターズクラブで遊びに行くのがさらに楽しみになりました。（北見市 60代男性様）
- ◆祖母が佐呂間町に住んでいた事もあり、小さい頃から佐呂間町は第二の故郷のような存在でした。今は亡き祖母の愛した佐呂間町を全国にPRしたいと思います。（千歳市 40代男性様）
- ◆妻のニックネームも「ももちゃん」です。他人のような気がしません。近々家族で遊びに行きます。（網走市 ぶに様）
- ◆自然豊かな佐呂間町で生まれ育ったことは、半世紀を生きたいまでも、私という人間の核の部分成しています。物事に素直に感動し、他人に対しても優しいマチ佐呂間。これからも、故郷佐呂間町を誇りに思いPRしていきたいと思います。（網走市 50代女性）

【コメント】

先日、サロマ大収穫祭に参加させて
いただきました。海のもの山のもの
が沢山楽しめました。来年も
楽しみにしています。

【コメント】

サロマ大好き♡です。

道の駅で かぼちゃとサロマ湖を
のんびりとながめながら、ホタテとかき
を食べるのが 夢です ♪

【コメント】

名産品
サロマを応援します。

【コメント】

佐呂間の思い出を持ちたい
お土産にしたい、是非函館
かぼちゃ下見、応援したい

【コメント】9月26~28日まで

秋めいたサロマを堪能してました。
また1つ9月のサロマの思い出が
出ました。次回1月に訪れようと
考えています。冬のサロマを満喫に。

【コメント】

来年も夏休みに行きたい。
サロマ草をみたくて。

【コメント】

御町の 益々の発展と
お祈りしています。

【コメント】

佐呂間から遠く離れておりすが北の大地で
かんぱくいほ様子が伝わってきております。
サポーターズとして、地元地域にも 佐呂間
町を少しづつ草の根のごとく広めたいと思っております。

【コメント】はじめて佐呂間に行きました。

10/4の祭りはすごかった。
ホタテを堪能したいものが安かった。
佐呂間のパークゴルフ場も
とても良かったですよ。

【コメント】

毎年、夏に家族で北海道を
訪れています。来年夏にも訪れる
予定です。埼玉の地から佐呂間町
を応援しています。

【コメント】佐呂間町は私にとって
と、と縁のある町です。行く度癒されます
益々の発展を応援しています。

【コメント】

佐呂間の物産が買えるということで
"みなと区民まつり"に行ってきました。
豚串とホタテ炙焼を食べました。もう一
皿食べたかった衝動をおさえ、お土産を買わせて頂
きました。

【コメント】

先日、サロマ湖展望台へ行って来ました。天気も良く景色を楽しんで来ました。

その際、役場に25寄り、ふるさと納税に24の寄附をするの寄附させてもらいました。(特典品、とてもお美味しかったです)。

【コメント】

先日22 佐呂間町を積極的にPRしています。

サロマの風 毎回楽しみにしています。

【コメント】

今年のサロマへ2回行きました。(1回はソウ)子どもが道東に住んでいるので、これからは時々遊びに来ます。素晴らしい自然をこれからも守りたいです。

【コメント】

いつも6月にしか会えないサロマ。初めての回報を頂いてこの秋にもまだ知らないサロマに出会えたようでうれしいです。

【コメント】

100キロマラソンで訪れたサロマ。少ししか経ってはいないのに懐かしい場所に感じます。来年の年賀状はサロマ湖100キロマラソン、夫と一緒にゴールした写真入りに決定しています(笑) Q10

【コメント】

佐呂間のカキ食べたことないのでぜひ味わってみたい！おいしいものがたくさんある佐呂間 最高です。

【コメント】

いつも佐呂間の情報を楽しみにしています。いつかは佐呂間町へ遊びに行きたいと思っています。

【コメント】

柳井の義人田中翁の百年祭がご縁で本年6月にサロマ湖にお世話になりました。美味しい海産物・ジギスカン等堪能した旅でした。年に一度の北海道今年も来年6月のサロマ行きが待たれます。宜しくお願い。

【コメント】

サロマ湖100キロウルトラマラソンに参加して、佐呂間町が大好きになりました！来年もぜひ佐呂間町に行きたいです。

【コメント】

故郷の祭展を祈念致します

【コメント】

9月に町内へ宿泊させていただきサロマ湖の夕日を見ることができました。食べ物も美味しく楽しい旅行になりました。

【コメント】

私の父、妻は佐呂間出身なのでとても身近に感じます。どんどんPRしていきたいと思っております。

【コメント】

今年のサロマ湖100kmウルトラマラソンは
私にとって14回目の出場でした。
仲間も増えて今年は28名に!!
来年はもっと多くの仲間とサロマへ行きたい。

【コメント】

頑張った下ない応援に感謝。

【コメント】

佐呂間町
がんばれ!

【コメント】

佐呂間を離れてもう、36年になりますが
今でも佐呂間が大好きです。
佐呂間をもっと盛り上げていきましょう!

【コメント】

今年の6月に初めてサロマ湖ウルトラマラソンに
参加しました。豊かな自然とあたたかいおかげで、
無事完走できました。これからも参加して
サロマンブルーになっ、サロマ湖に足型を残したい
です。そしてホタテハイ等の特産品も買いたいです。

【コメント】

又、サロマへ行くのが
楽しみです。

【コメント】

サロマ最高!!
佐呂間はおいしいものが豊富で大好きな町です。

【コメント】

サロマ湖で見た夕陽が忘れられません。
また必ず見に行きます!

【コメント】

佐呂間町の素材で作されて
いる特産品はとておい
です。皆に勧めたいです。

【コメント】

かきが好きです。
でも佐呂間はもっと好きです。

【コメント】

2009年に北海道一周旅行をし、その際サロマ
に訪れました。海の幸の美味しさや広い景色が
あかり気に入り、以来、2~3年に1度は足を運ぶ
ようになりました。佐呂間町頑張れー★
サロマ湖では牡蠣もとれるんですね!!! 食べたいです!!!

【コメント】

サロマ大好きです!!



佐呂間町は
町民だけのものでは
ありません
日本中の人たちの
こころのふるさととして
自然を守り
いのちを育む
いつまでも
そんなまちで
あり続けます

平成 28 年 3 月発行

北海道佐呂間町企画財政課

〒093-0592

北海道常呂郡佐呂間町字永代町 3 番地 1

TEL 01587-2-1214 FAX 01587-2-3368